

福田理軒著  
 明治塵劫記大全

掛物 掛目 尺物  
 日時 增減 利足  
 盈虧 差分  
 復習例題

福岡第一師範學校  
 (學校圖書)

登錄號	第	號
分類	門	
種別	部	
種別	項	
種別	次	
種別	冊	
種別	冊ノ内第	
分類	第	號

福岡縣立師範學校

明治 算術 14  
 冊ノ内

T1A1  
 38  
 F 74

福田理軒先生著  
花井靜先生校



# 明治塵劫記大全

東京書肆 萬青堂發兌

明治小學塵劫記序

童蒙ノ知識ヲ振興シ開明ノ進歩ヲ  
誘導スル數學ニ如クハナシ故ニ現  
今小學ニ在テモ其科目ヲ設ケ皇洋  
ヲ論セス其技ヲ教諭ス書肆萬青堂  
來テ珠算教導ノ書ヲ乞フ因テ生平  
注意スル處ノ幼學專務ノ算數一二  
ヲ輯録シ發蒙進歩ノ應用トシ尚ヲ

古人吉田光由子著ス所ノ書名ニ原  
因シ題シテ明治小學塵劫記ト號シ  
以テ其需メニ應ス

明治十一年一月東京順天求合社ニ  
於テ理軒老人誌ス



東苑主人書

凡例

一 塵劫記の稱を今と距ると二百五十年前寛永四年吉田氏  
の著録し塵劫來事絲毫不隔の句は本づくとり余も亦  
之に因る  
加を集り入るとあり○減を引き去るとあり  
乗を同一數を集むるとありてうけるとあり  
除を同一數に分るとありてとるとあり  
因を一位ある數のうけざんとあり  
歸を一位ある數のとりざんとあり  
従来の八算にて十二万の如きを其除聲と關くもの多  
此編いま之と補ふ

明治塵劫記目録

一之卷

基数

大数

小数

度数

量数

衡数

天度

地尺

金貨

銀貨

銅貨

算珠盤用ひずり

加入の聲

減去の聲

加入の算

減去の算

九々の聲同註解

八算顯一の除聲同註解

算學入門の心得

八算八問の苗解

頭一九問の苗解

加減復習題五十問同答式

乘除復習題百四十八問同答式

比例法説明 同八問題の解

明治小學塵劫記

福田理軒著

花井 靜校

基数

一・二・三・四・五・六・七・八・九・十

一三五七九を陽数なり之を奇数と云又天数ともいふ二

四六八十を陰数なり之を偶数と云又地数ともいふ天数

合して廿五地数合して三十と曰ふ又之を併べ五十五と

ある之を天地の数といふ易經に説あり

大数

一より以上の数といふ





金貨

千圓 百圓 廿五圓 十圓 五圓 二圓 一圓 以下銀貨と用ひ

旧貨 兩 一四より 歩 廿五錢より又百四と云ふ 朱 六錢二厘五毛より 枚 七兩二分より

銀貨

一圓 五十錢 廿錢 十錢 五錢 以下錢貨と用ひ

旧貨 兩 四文三分あり 枚 四十三文あり

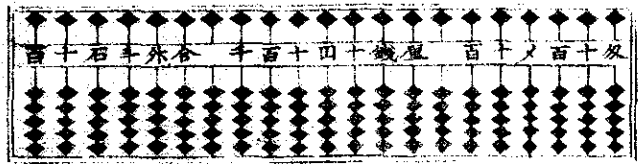
銅貨

二錢 一錢 五厘 一厘

旧貨 天保錢 八厘あり 寛永浪錢 二厘あり 天保浪錢 一厘五毛あり

寛永銅錢 一厘五分あり昔時と一文とあり

算珠盤用ひようの事



上

右

下

算珠盤の用ひやうを左に法ありの時と置き  
右小実と置くべし假令を物数百と十六人  
を割渡す時を十六人を法にして物数百を  
実あり故に左に十六を置き右に百を置く  
あり加減算の寄りどん如きを実法の合ちふ  
し故に何れとも随意の処に置くべし  
算珠盤の桁数を通常廿一桁を用ひ  
算珠の遣ひやうを上珠一ツと五ツの數  
と下珠を一ツと二ツと三ツと四ツと五ツと合  
して十と為るあり因て下の珠一ツと一

算珠盤の用ひやうの事





の桁へ十を入る声あり又三ニ七とけの十とを三と入る  
 時前より七より余計の數有る三と入る直ニ七と取て  
 三ニ七とをの十と云て左の桁へ十と入る声あり他之と  
 推て知るべし

減去の聲

一引て九残る二引て八残る三引て七残る四引て六残る五引て五残る  
 六引て四残る七引て三残る八引て二残る九引て一残る

註よ曰く一引て九残るとを一と引んとするは其桁より一  
 の數なき時を左の桁より十と取て一引て九残ると云て  
 右の桁へ九と置く稱言あり又七引て三残るとを七と引  
 んとするは其桁より七の引れぬ時を左の桁より十と取

て其桁へ三と入る稱言あり他之よ準へ

加入算 よせざん

五厘 七厘 九厘 一錢一厘 一錢三厘 此銀かのく合

せ何程あるや 答 四錢五厘

法よ曰く五厘と置く下の如し 之よ七厘を加へるよ



も七よ三とをの十と云て五の下より珠と二ツあげ上  
 の五と取て左の桁へ一ツを置く 又之へ九厘を入るよ



も九ニ一とをの十と云て此二厘の内一と取て左の桁へ一

と入る 又之へ一錢一厘を入るよ左の二の処へ一



と入れ次の一厘の桁へ一と入る 又之へ一錢三厘を



入るよ左の三の処へ一錢と入れ次の二の処へ三厘を入

上の五と下りの二を取拂ふ



四錢五厘と知る

二圓六十錢 一圓五十錢 八圓七十錢 廿四圓四十錢

三十二圓九十錢 此金合して如何 答 七十圓四十錢

法よ曰く下の如く二圓六十錢と置き



之へ一圓五十

錢を加へるよを二圓の処へ一と入れ三とある又次の桁へ

五十錢を入るよを六の内上の五と取り五よ五よの十と

云ふ左の三の処へ一と入る



之へ八圓七十錢を入る

よを四圓の内二と取り八よ二よの十と云て左の桁へ

と置き又次の桁一

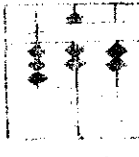
の処へ七をいれる



十圓の処へ二と入れ中の桁二の

処の上の五と下りの二の内一と取り六とある又末の桁

へ四を入るよを八の内上の五と下の二と取り  
四よ六よの十と云く中の六の処へ一と入る  
二圓九十錢を入るよを左の桁三の処の上の五と下りの  
三の内二と取り六とある又次の桁の七の処へ二圓を  
入れ九とある又次の末の桁へ九十錢を入るよを此桁の二  
の内一と取り九よ一よの十と云て中の桁の九の  
処へ一と入れ十とあるもへ之と拂ひ左へ一と入る  
七十の圓十錢をゆる以下之よあるへ




之へ

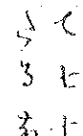
減去算 張さん用

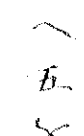
金七百圓の内百七十五圓と九十四圓と二百六十九圓と三  
十七圓三十錢と廿四圓八十錢と遣拂ふより残金幾何あり

答 九十九田九十錢

法 又曰く下の如く七百田とをき  此内百七十五田と

引より七百の内百を引六とある此内一をとり七引て三残


ると云ふ右の桁へ三ををき  又此三の内一を


取り五引て五残ると云て次の桁へ五ををき  又此五の内一を

又此内九十四田と引くより左の五百田の処の下よ

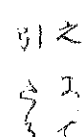
り四と上て上の五を拂ひ九引く一残ると云て中の

桁の廿の処へ一を入れ三とある又次の桁の五の処の下よ


り一と上て上の五  又此内二百六十九田を引より左


と拂ひ  の四百の内二を引き又一と取り

六引て四残ると云て中の三の処の上の五と下り下の三の

内一をとり七とある  又此内一をとり九引て


一残ると云て次の桁へ  又此内三十七田三十錢を引


一と入る  又此中の六十の処の下より

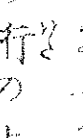
二と上り  又此三の内

一をとり七引て三残ると云て次の桁へ三をいれ五とある

又此内廿四田八十錢引より中の二桁

桁へ七を置き  又此内廿四田八十錢引より中の二桁

と引より三十錢  又此内廿四田八十錢引より中の二桁

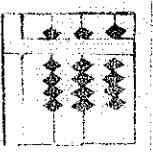
と引んとある  又此内廿四田八十錢引より中の二桁

百と取り次の桁の上の五と下り下の五と上げて十と詰

め此内下の一をとり又次の桁の上の五と下り下の五と

小學廣長言 卷一

上げ十は詰り此内下の一と取り八引て二残る  
 と云て末の七の処へ二と入る之引て八十錢  
 九十九圓九十錢と知る余之は準と知るべし



故に  
 残る金

九九の聲 八さん見一のクケ声

一	一	二	三	四	五
一六	一七	一八	一九	二〇	二一
二二	二三	二四	二五	二六	二七
二八	二九	三〇	三一	三二	三三
三四	三五	三六	三七	三八	三九
四〇	四一	四二	四三	四四	四五
四六	四七	四八	四九	五〇	五一
五二	五三	五四	五五	五六	五七
五八	五九	六〇	六一	六二	六三
六四	六五	六六	六七	六八	六九
七〇	七一	七二	七三	七四	七五
七六	七七	七八	七九	八〇	八一
八二	八三	八四	八五	八六	八七
八八	八九	九〇	九一	九二	九三
九四	九五	九六	九七	九八	九九

六六三六六七四十二六八四十八六九五十四七七四十九  
 七八五十六七九六十三八八六十四八九七十二九九八十一

註よ曰く九々の声々八算見一とべての乘聲あるをよく  
 く暗唱せしむ假令々七八五十六と々七と入る寄る数  
 あり又々八と七と寄るも同ト他之を推て知るべし又  
 二と三と六と云々二の段よて三を取て次の桁  
 へ六と入るあり又三の段よて二を取て次の桁へ六と  
 入るあり又五七三十五と云々五の段よて七と三と作  
 り次の桁へ五と入るあり又七の段よて五と三と作り  
 次の桁へ五と入るあり何れも見合せし法よりてを  
 中々の異あるなり是皆各八算の乗あり頭一を首ら

一桁を八算の衆やうと同く次の桁よりを其聲の如く教  
と入るある其條件は就て考あべし

八算顯一の除聲

○一之段	一進の一十二	二進の廿	三進の三十
四進の四十	五進の五十六	六進の六十七	七進の七十
八進の八十九	九進の九十	見一無頭作九一	歸一陪一
○二之段	二一添作五	二進の一十四	四進の廿
六進の三十	八進の四十	見二無頭作九二	歸一陪二
○三之段	三一三十一	三二六十二	三進の一十
六進の廿	九進の三十	見三無頭作九三	歸一陪三
○四之段	四一廿二	四二添作五四	三七十二

四進の一十八	進の廿	見四無頭作九四	歸一陪四
○五の段	五一加一	五二加二	五三加三
五四加四	五進の一十	見五無頭作九五	歸一陪五
○六の段	六一下加四	六二三十二	六三添作五
六四六十四	六五八十二	六進の一十	見六無頭作九六
歸一陪六			
○七の段	七一下加三	七二下加六	七三四十二
七四五十五	七五七十一	七六八十四	七進の一十
見七無頭作九七	歸一陪七		
○八の段	八一下加二	八二下加四	八三下加六
八四添作五	八五六十二	八六七十四	八七八十六

八進の二十 見八無頭作九

帰一倍八

○九の段

九一下加一 九二下加二

九三下加三

九四下加四 九五下加五

九六下加六

九七下加七

九八下加八 九進の二十

見九無頭作九九

註よ曰く一進の一十と一と取て一位進めて左の桁へ  
 十と入るなり二進の一十と二と取て一位進め左の桁  
 へ十と入るなり三進の一十より九進の二進の止、四進の  
 廿六進の廿、五進の廿と二ツ重ねるなりあり三進の三十、六進  
 の卅、九進の三十と皆之と三ツ重ねるなり○二一添  
 作の五と二よて一と除く時其一を拂以上の五と下先  
 あり四二添作の五と四よて二と除く時其二を拂以上の

五と下を稱言あり六三添作の五、八四添○三一、三十一と  
 を三よて一と除く時其一と三よ作り次の桁へ一と入る

あり三二六十二と三よて二と除く時其二を六よ作り

次の桁へ二と入るあり四一、廿二、四三、七二、六二、三十三、

二、七四、五十五、七五、七十一、七六、八十四、八五、六十二、

八六、七十四、八七、八十六、いづれも〇五一

加一と五よて一と除く時其一の処へ一と加へ五二加

二と五よて二と除く時其二の処へ二を加へるとり入

五三加三、五四加四

〇六一下加四と六よて一と除く時

一と其終よて次の桁へ四と加へるあり七一下加三と

七よて一と除く時一と其終よて次の桁へ三と加へ

るあり七二下加六、八一一下加二、八二下加四、八三下加六、九

一七下加九、九二下加三、九三下加四、九四下加六、九五

下加五、九六下加六、九七下加七、  
 九八下加八、九九下加九、〇見一無頭作九一とを一  
 と以て一を除くは法の数より実の数少き時此声を用ひ  
 了あり其一と九と作り次の桁へ一と入るあり見二無頭  
 作九二とを二と以て二を除く時法の数より実の数少き  
 時此声を用ひて其二と九と作り次の桁へ二と入るあり  
 見三無頭作九三より見九無頭〇帰一陪一とを一の段の  
 作九九と至り至る之はかゝり〇帰一陪一とを一の段の  
 声を用ひ一桁除く時次の桁より九々の声の引ぬ時此  
 声を用ひ其餘する内一と取り次の桁へ一と入る稱言ふ  
 り帰一陪二とを二の段の声を用ひ一桁除きする時次の  
 桁より九々の声の引ぬ時此声を用ひ其餘する内一と  
 取り次の桁へ二と入るあり帰一陪三より帰一陪八と至

算學入門心得の事

凡そ算法を学ばんと思つて先づ始めに記を処の加減の声  
 及び九々の声八算見一の除声をよく暗唱し加減の法を  
 知覚し八算を習ふよむ日数を厭はば胸中より理會するを  
 專要とし見一を学ぶよむ実法の見合せを專一に修練し後  
 よ記を処の復習題を熟習し漸進を主とし必だ急進するべ  
 らん加減乗除の法を會得し自在に其法を施すとほり次  
 よ比例法を学ぶべし此法をよく研究し理會せし其益最  
 も少るうらば金銀諸物の取引より都て其家事は関り了  
 の日用の算法多く此法は出る由のあり次に開平開立法勾  
 股變化の術は通し天元點竅法代数学と研究をべしよく

此法よ熟達する時と実よ算学中の字林玉篇或は大全節用集などの字引と懐中しる如くよして其用は臨に變は應ト萬術隨ふに施しほく其他諸約翦管極數招差田理孤背求積星学曆術測量に至るとも皆此法よ原因するあり

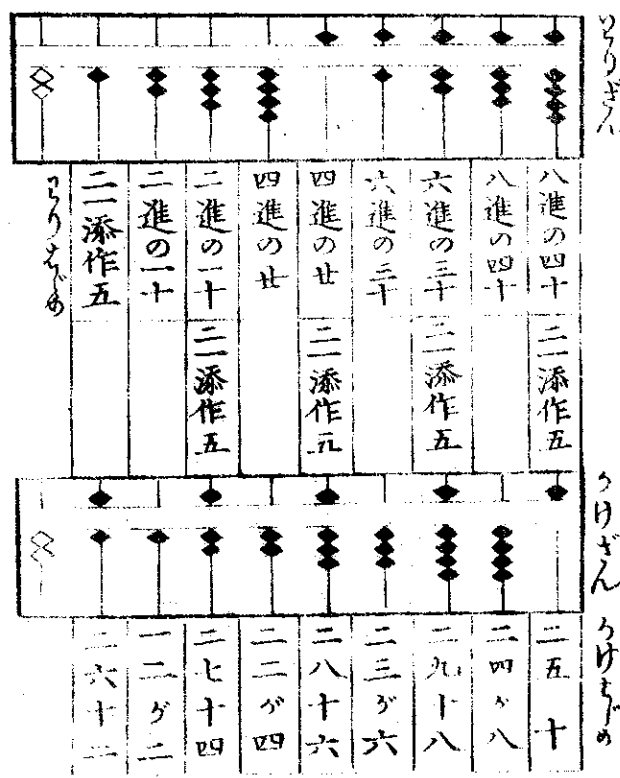
八算

歸因 歸を一位のりりざんあり 四を一位のりりざんあり

二、段 二添作五 二進の二十 四進の廿 六進の三十 八進の四十 米十二万三千四百五十六石七斗八升九合とニツよ歸何程

答 六万千七百廿八石三斗九升四合五夕

除算の註よ曰く左番の如く算珠盤の左よ法の二をきき次に十二万三千四百五十六石七斗八升九合をきき実と一と二一添と則合せ法の數より呼び出せ 法の始めの二と二一添



進の廿と五の下へ二をきき又次の桁五の内四を取て四進の廿と左の桁へ二をきき残りの一と二一添作五と

作五と一又次の桁の二と取て二進の十と除り又次の桁の三の内二と取て二進の一とと左の桁へ一をきき又残りの一と二添作五と一又次の桁の四を取て四

八算のりりざん

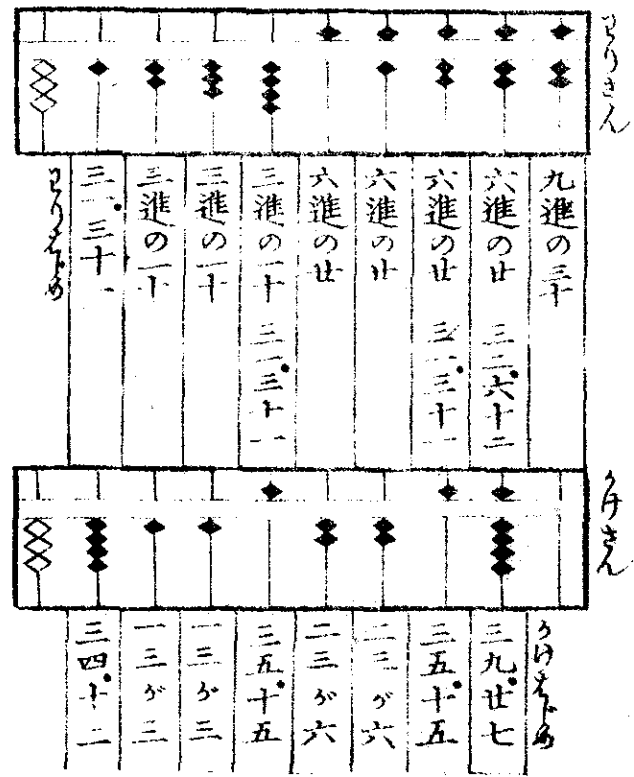


又次の桁の六を取て六進の三十と左の五の下へ三を  
 又次の桁七の内六を取て六進の三十と左の桁へ三を  
 残りの一と二一添作五と次桁の八を取て八進の四十  
 と左の五の下へ四を入れ九と又末の桁九の内八を取て八  
 進の四十と左の桁へ四を置き残りの一と二一添作五と  
 之よて除尽く六万七千七百八石三斗九升四合五夕と知了  
 乗算の註は曰く右下の首の如く法よ二を置き実よ六万千  
 七百廿八石三斗九升四合五夕と置き  
 合せ数の少きうと先づ法の二と実の五と見合せ二五の十  
 たり又法の二と左の桁の四と見合せ二四が八と云ひ四と  
 拂ひ次の一の処へ八と加へ九と又法の二と実の九と見合

せ二九十八と云て九を十よ作次桁へ八を置き又法の  
 二と実の三と見合せ二三が六と云て三を拂ひ次の桁一の  
 処へ六を入れ七と又法の二と実の八と見合せ二八十六と  
 云て八の内七を取り十よ作り次の桁へ六を置き又法の二  
 と実の二と見合せ二二が四と云て次の桁一の処の上の五  
 と下下の一と拂ひ五と又法の二と実の七と見合せ二七  
 十四と云て七の内六を取り十よ作り次の桁へ四を置き又  
 法の二と実の一と見合せ一二が二と云て一を拂ひ次の一の  
 処へ二を入れ三と又法の二と実の首らの六と見合せ二六  
 十二と云て六の上の五と拂ひ十よ作り次の桁へ二を置き  
 原の十二万三千四百五十六石七斗八升九合とゆるあり

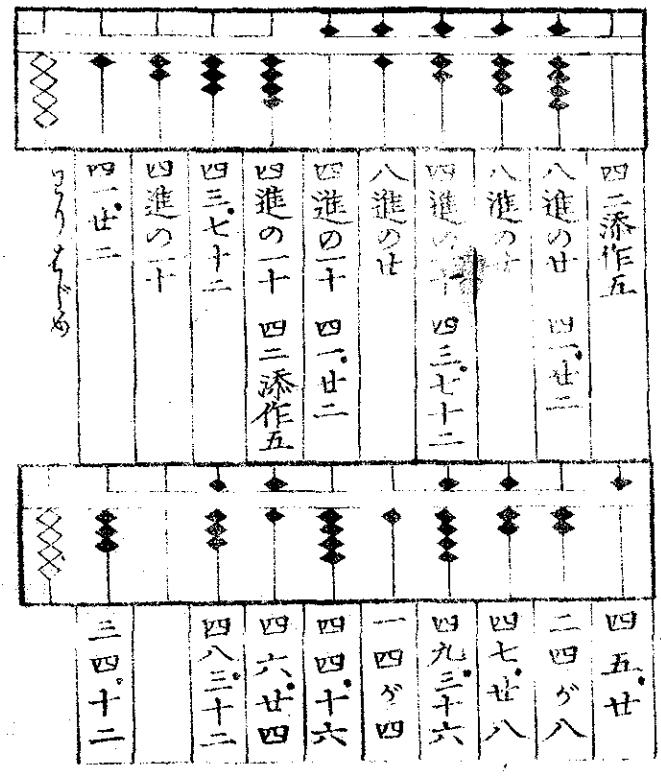
八  
 算  
 力  
 記  
 卷  
 一  
 六  
 頁  
 三  
 十  
 五

酒一億二千三百四十五万六千七百七十七駄と三ノ帰何程  
 答 四千百十五万二千二百五十九駄



三ノ段の聲  
 三一三十一  
 三二六十二  
 三進の十  
 六進の廿  
 六進の廿  
 二三が六  
 三五十五  
 一三が三  
 三四十二  
 除衆の註解を二の  
 段に準ふて推し知  
 るべし

金一億二千三百四十五万六千七百八十九両と四ノ帰何程  
 答 三千〇八十六万四千百九十七両廿五銭

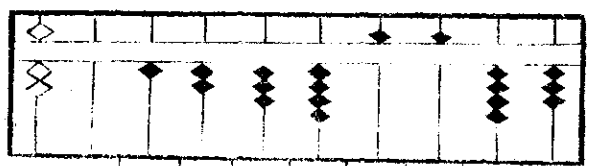


四ノ段の聲  
 四一廿一  
 四二添作五  
 四三七十二  
 四進の十  
 八進の廿



八段の聲  
 麥千二百三十四万五千五百四十三俵と七軒よ婦何程

答 百七十六万三千六百四十九俵



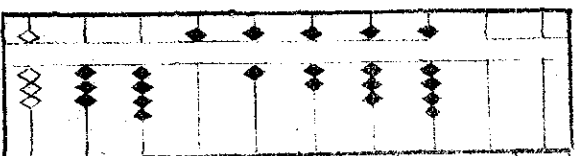
七進一十  
 七六八十四  
 七進の二十七三、四十二  
 七進の二十七四、五十五  
 七進の二十七二下加六  
 七四五十五  
 七五七十一  
 七二下加三



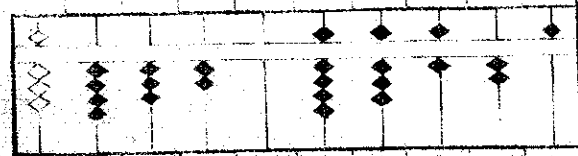
七九六十三  
 四七、廿八  
 六七、四十二  
 三七、廿一  
 六七、四十二  
 七七、四十九  
 一七、廿七

七段の聲  
 七一下加三  
 七二下加六  
 七三、四十二  
 七四、五十五  
 七五、七十一  
 七六、八十四  
 七進の一十

小豆三千四百五十六万七千八百九十石と八軒よ分ち何程  
 答 四百三十二万〇九百八十六石二斗五升



八四添作五  
 八二下加四  
 八進の二十八五六十二  
 八進の二十八六七十四  
 八七、八十六  
 八進の一十  
 八進の二十八二下加二  
 八進の二十八三下加四  
 八三下加六



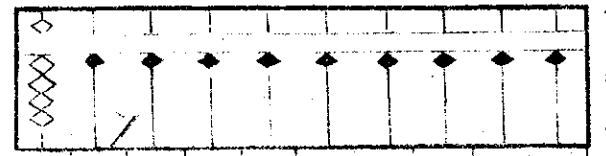
五八、四十  
 二八、十六  
 六八、四十八  
 八八、六十四  
 八九、七十二  
 二八、十六  
 三八、廿四  
 四八、三十二

八段の聲  
 八一下加二  
 八二下加四  
 八三下加六  
 八四添作五  
 八五、六十二  
 八六、七十四  
 八七、八十六  
 八進の一十

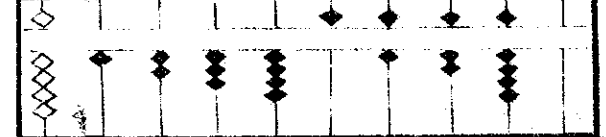
煙草千百十一万千百十一貫百目と九人よ分ち何程

答 百廿三万四千五百六十七貫九百目

九段の聲



九進の下  
九八下加八  
九七下加七  
九六下加六  
九五下加五  
九四下加四  
九三下加三  
九二下加二  
九一下加一



九九八十一  
九九六十三  
九九四十五  
九九二十七  
九九九  
一九九

九一下加一  
九二下加二  
九三下加三  
九四下加四  
九五下加五  
九六下加六  
九七下加七  
九八下加八  
九進の一十

除乘

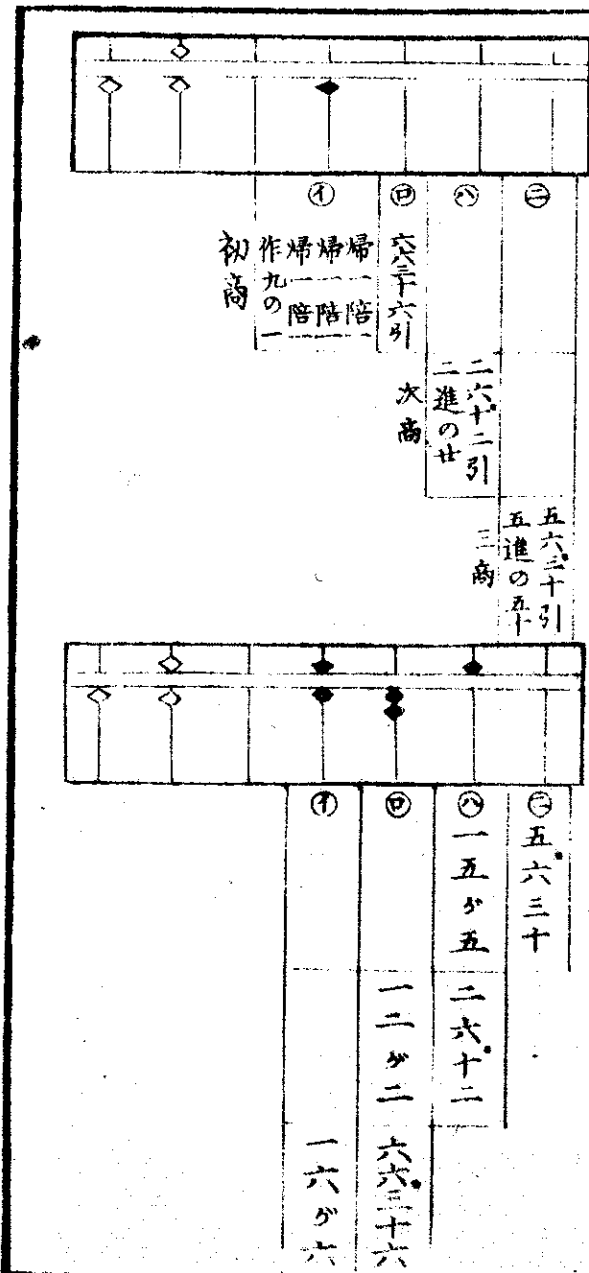
顯一

除聲を都て一の段の声を用ひ一進の一十の出来ざる時を見一無頭作九一と云ひ又引れぬ時を帰一陪一と云ひ一を次へ返さあり

銀百目と十六人よ分ち時一人前を問 答六分二分五厘

解よ曰く法あり二桁より多位みく除くを俗ま見一と云ふ先づ法の首らの数みて実の首ら一桁を除く之を初商とりしものなり其商と法の次の桁の数と見合せ九々よ呼びて実めて商の次より引き次第此の如く法の桁数どげ順々よ引拂ひ之よ初商の又法の首らの数を以て実の次の桁よて初商の残数を除り次商を求め又其数

と法の次の桁と見合せ九々よ呼び引拂ひ次第は法の末の桁まで見合せ引拂へら次商を除き済むあり又残数ある時々前の如くよして三商の商と求むべし



除法は曰く右箇の如く十六を法はをき百目を実はをき先づ一の段の声より一進の一十と云時々次の桁は数多くて九々の声の引ぬゆへ一進の一十をでけむ仍て作九の一と云て百目の桁を九よ作り次の桁へ一とをき①の九と法の次の桁六と見合せ六九五十四②の桁よて引む故は帰一陪一と云て九の内一を取り次の桁へ一を入れ①八②二とある此八と法の六と見合せ六八四十八③の桁よて引む故は又帰一陪一と云て八の内一を取り次の桁へ一を入れ④七⑤三とある此七と法の六と見合せ六七四十二⑥の桁よて引む故は又帰一陪一と云て七の内一を取り次の桁へ一を入れ①六②四とある茲よいて此六と法の六と見合せ

六六三十六引と云て④の内三十を引き又残りの一を取  
 て六引て四残ると云て次の④の桁へ四を添き是れ初  
 又法の首ら十を以て一の段の声も二進の廿と云て④の  
 四の内二を取て④の桁へ二を添き一進の十と云て④の  
 残る二進の廿と用や九の聲引ど④二とあり此④二と  
 法の六と見合せ二六十二と云て④の内十を引き又残り  
 の一を取て二引て八残ると云て次の④の桁へ八を添く  
 と二商を又法の首らの十を以て一の段の声も五進の  
 五十と云て④の内五を取て④の桁へ五を添き四進の  
 引き④へは五進の五と用や其通算の声を考ふべし④五  
 ③三とある此五と法の六と見合せ五六三十引と云て③の

桁の三を拂へは是て除尽て六分五厘と知る  
 乗算の解は曰く実の末の桁より法の桁数だけ一桁毎に  
 乗るあり故は実の末の桁より法の桁数ほど右へ退き其  
 法の末より一ツ左の桁と実の末と見合せ九々と呼て加へ又  
 へ次第皆此の如くして法の首らの桁を八算の算より  
 と同く其声の通り又作るべし是れ実の末一桁又其  
 左の桁も此の如くして実の首らの桁まで乗るあり  
 乗算の術は曰く右の下首の如く十六と法と一六分  
 二分五厘と実と添き末の五厘の桁より法の桁数二桁右へ  
 退き此五厘と法の末の六と見合せ五六三十を③の桁へ

八五厘力己  
 二二  
 頁六

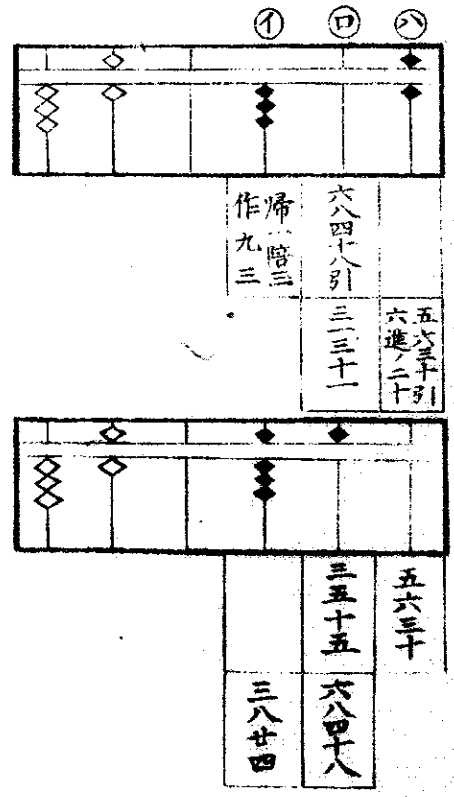




除算の術は曰く右番の如く倍法と実と見合せ法の廿と  
 以て実の首らの一と二一添作五と除り五と此五と法の次  
 の桁の三と見合せ三五十五の桁より引故は五の内一  
 と取り帰一陪二と云て次の桁へ二と入れ④四③三とある  
 ①の四と法の三と見合せ三四十二と①のよ引き②二  
 ③空とある又法の廿と以て②の二と作九の二と云て二と  
 九よ作り次の桁へ二と入れ⑨②二とある此九と法の三  
 と見合せ三九廿七と①のよ引除尽て四十九田あり  
 兼算の術は曰く実の末九田の桁より法の桁数二位退を  
 九田と法の末の三と見合せ三九廿七と云て此桁へ廿と倍  
 き次の桁へ七と倍②二③七とある又九田と法の廿と見

合せ二九十八と云て九田と十よ作り次の桁へ八と入るふ  
 其桁よ二ある故八よ二とをの十と云て①の二を取り左の  
 桁へ一と入れ②空とある又四十田の処より法の桁数  
 二位と退をき③の処より四十田と法の三と見合せ三四十  
 二と云て此桁へ十と入れ次の桁へ二と入れ③三①二とある  
 又四十田と法の廿と見合せ二四が八と云て四十田を拂  
 ひ次の桁へ八と入るに此桁よ五ある故此内二を取て八よ  
 二とをの十と云て左の桁④一と入れ是より乗けおるり  
 元の千百廿七田とあるあり

綿三千の六十斤と三十六人よ分る何程 答 八十五斤  
 除算の術は曰く左番の如く倍法の三十と以て実の三千



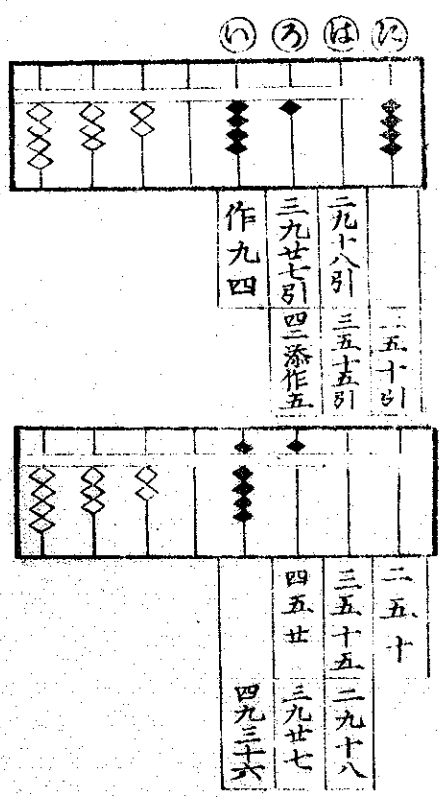
見三  
除聲を總て三の段  
の聲を用ひ除れぬ  
時を作九の三と云  
ひ引れぬ時を歸一  
陪三といふあり

と見合せ作九の三と云て三千を九よ作り次の桁へ三を  
き此九と法の六と見合せ六九五十四引んと多しよ次の桁  
よて引む故よ歸一陪三と云て九の内一を取り次の桁へ三  
と入れ①八②六とある此八と法の六と見合せ六八四十八  
引と云て次の桁六の内四と引き残り二の内又一と取て八

引て二残りと云て次の桁六の処へ二と入れ①八とあ  
る又法の三十を以て②の一と三一三十一と云て一と三よ  
作り次の桁へ一と入れ③の九とある此三と法の六と見  
合せ三六十八と次の桁あり引く時を余り多く除尽む故  
よ此九の内六と取て六進の廿と云て④の桁三の処へ二と  
入れ⑤五⑥三とある此五と法の六と見合せ五六三十と云  
て⑦の三を拂へり之より除尽て八十五斤と知る  
衆算の術よ曰く実の末五斤の処より法の桁數二位と退ぞ  
き五斤と法の六と見合せ五六三十と云て此桁へ五と⑧三  
とある又五斤と法の三と見合せ三五十五と云て五斤と一  
よ作り次の桁へ五と入れ⑨八とある又実の首ら八の

折り法（折り）の折数（折数）二位と退（退）をき此八と法（法）の六と見合（見合）せ六八  
 四十八と云て此折（折）へ四十と入れ⑤五とある次の折（折）へ八と  
 入る先（先）は八ある故八は二とをの十と云て八の内二と取  
 り④の折（折）へ一と入れ⑥六とある又実（実）の八と法（法）の三十  
 と見合（見合）せ三八廿四と云て八と二と作り次の折（折）へ四と入る  
 は先（先）は六ある故四は六とをの十と云て其六と取り左の折（折）  
 へ一と入れ①三④空⑥六とあり是より果（果）かり元（元）の三  
 千〇六十斤とほりあり

金（金）四千百〇四圓と四百三十二と除き何程 答九圓五十錢  
 除算（除算）の術（術）は右（右）の如くは毫（毫）き法（法）の首（首）らの四百と実（実）の  
 首（首）らの四と見合（見合）せ作九の四と云て四と九と作り次の折（折）



へ四と入れ④九⑤五とある此九と法（法）の中の折（折）三と見合（見合）せ  
 三九廿七引と云て次の折（折）の内二と引く又次の⑥の折（折）は  
 七と引くとあるよ引れど仍て③の三の内一と取り七引く  
 三残りと云て次の折（折）へ三と引く②三とある又④の九  
 と法（法）の末の折（折）二と見合（見合）せ二九十八引と云て③三の内十と

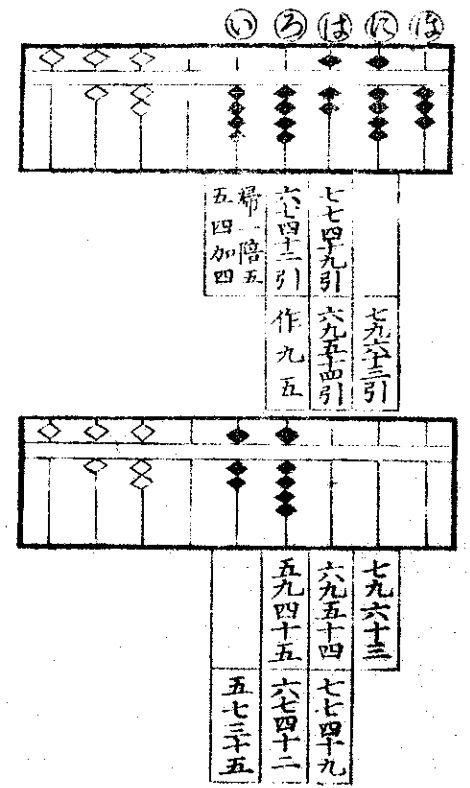
見四  
 除聲（除聲）を総て四の段  
 の声と用ひ除れぬ  
 時と作九の四と云  
 ひ引きぬ時と帰一  
 陪四とりし

引き次の桁より八と引んとさうしよ引ざりけん ④二の内八  
 一と取り八引て二残りと云て次の桁四の処へ二と入れ ⑤  
 一④六とある又法の首ら四百と以て⑤の二と見合せ四二  
 添作五と云て二と五と作り⑤五とある此五と法の次の桁  
 三と見合せ三五十五引と云て⑥より十と引き次の桁四よ  
 て五と引き又⑥の五と法の末の桁二と見合せ二五十五引と  
 云て⑦より十と引は是めて除尽て九田五十錢と知る  
 兼算の術は曰く実の末五の桁より法の桁数三位退ぞき此  
 五と法の末の桁二と見合せ二五十五と云て一とをき又左の  
 桁より此五と法の三と見合せ三五十五と云て此桁へ一と  
 をき次の桁へ五と入れ ⑧一④六とある又左の桁より此五

と法の首らの四と見合せ四五廿と云て五と二と作り ③二  
 とある又実の首ら九の桁より法の桁数三位退ぞき此九と  
 法の末の桁二と見合せ二九十八と云て此処へ十と入れ次  
 の桁へ八と入るよ先よ六ある故この六の内二を取り八よ  
 二とさの十と云て④へ一と入れ ③三④四とある又左の桁  
 より首らの九と法の三と見合せ三九廿七と云て此処へ廿  
 と入れ次の桁へ七と入るよ先よ三ある故其三と取り七よ  
 三とさの十と云て⑤へ一と入れ ③五④空とある又左の桁  
 の九と法の首らの四と見合せ四九三十六と云て九と三よ  
 作り次の桁へ六と入んとさうしよ先よ五ある故此内四と取  
 り六よ四とさの十と云て左の桁へ一と入れ ④一と

あり元の四千百の四四とゆるかり

米四万四千七百九十三俵と五百六十七區よけの時を一區よ何程ありや  
 答 七十九俵



除算の術よ曰く右番の如くきき法の首らの五を以て実の首らの四と見合せ五四加四と云て四を八よ作り此八と法

見五  
 除算を総て五の段の  
 声を用ひ除れぬ  
 時を作九の五と云  
 ひ引れぬ時を帰一  
 陪五とりん

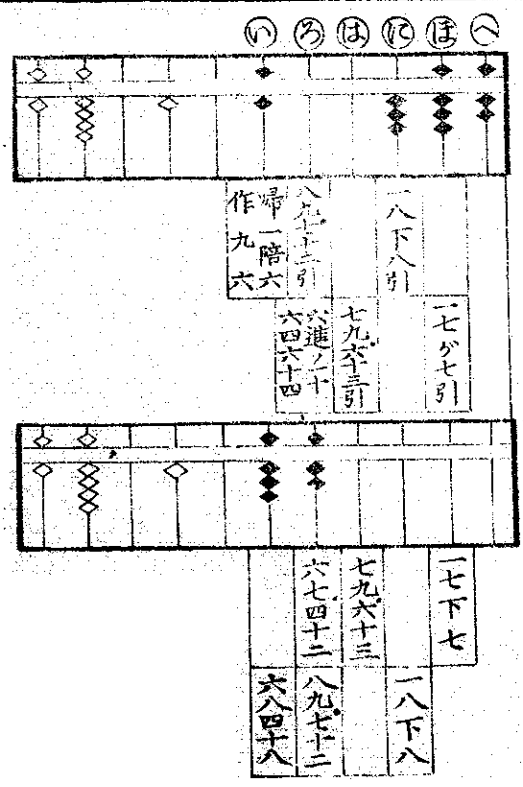
の六と見合せ六八四十八次の桁めて引を仍て八の内一と  
 取り帰一陪五と云て次の桁へ五と入れ七九とある此  
 七と法の六と見合せ六七四十二と〇ほめて引き〇五〇五  
 とある又〇の七と法の七と見合せ七七四十九とほに  
 引き〇一〇空とある又法の首らの五と以て〇の五と見合  
 せ作九の五と云て五と九よ作り次の桁へ五と入れ〇九〇  
 六とある此九と法の六と見合せ六九五十四と云て〇六の  
 内五と引き次の桁よて四引ぬ少く又残りの一を取四引  
 て六残ると云て〇の桁へ六と入れ〇空〇六とある又〇の  
 九と法の末の桁七と見合せ七九六十三と〇〇〇よて引を除  
 きて七十九俵と知るあり

八段 算術 卷一

乘算の術は曰く実の末九の桁より法の桁数三位退き此  
 九と法の末の七と見合せ七九六十三と④④へ書き又左の  
 桁へ移り実の九と法の六と見合せ六九五十四と④④へ入  
 れ④六④空④三とあり又左の桁へ移り此九と法の首らの  
 五と見合せ五九四十五と云て九を四より作り次の桁へ五を  
 入れ④五④一とあり又実の首ら七の桁より法の桁数三位  
 退き此七と法の七と見合せ七七四十九と④④へ入れ④  
 五④九とあり又左の桁へ移り実の七と法の六と見合せ六  
 七四十二と④④へ入れ④九④七とあり又左の桁へ移り此  
 七と法の首らの五と見合せ五七三十五と云て七を三より作  
 り次の桁へ五と入れ④四④四とあり元の四万四千七百九

十三位とほりあり

布六十万〇〇三百八十七端と六千九百〇一人より配をれ  
 を一人分何程とほりや  
 答 八十七端



見六  
 除聲を総て六の段  
 の声を用ひ除れぬ  
 時を作九の六と云  
 ひ引きぬ時を帰一  
 陪六とり

除算の術は曰く右首の如く書き法の首らの六を以て実の

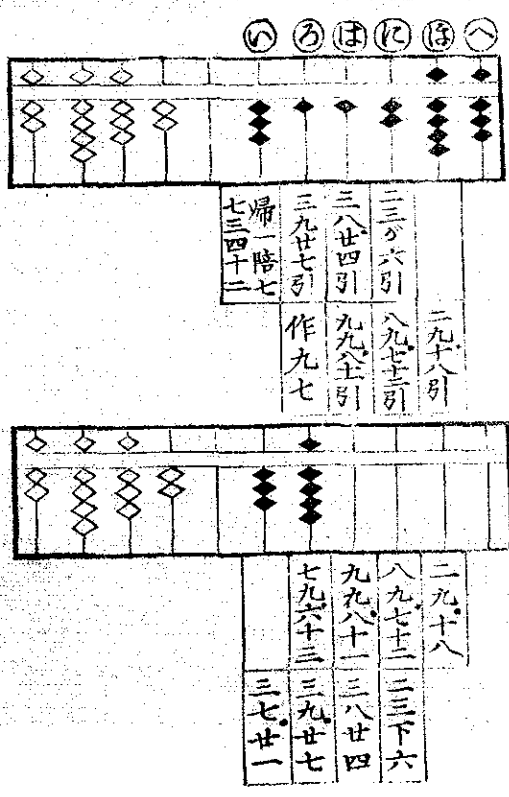
首らの六と見合せ作九の六とより⑨九⑥六とある此九と  
 法の九と見合せ九九八十一④の桁みて引を仍て九の内一  
 を取り帰一階六と云て次の桁③へ六を入るよ先よ六ある  
 故に入られど仍て此六をちうまてり④の八と法の九  
 と見合せ八九七十二④④よて引き④よて七トを引よ先  
 六ある中へいま④の六の内一を取④④八とある又④  
 七十引さるあり二も次の桁みて引く④④八とある又④  
 の桁よて④の八と法の末の一と見合せ一八が八と④の桁  
 よて引き④を十と引く桁あり④④八④④三④空④七  
 とある又法の首らの六を以て④の四と見合せ六四六十四  
 と云て四と六よ作り次の桁へ四を入るよ先よ八ある故八  
 の内二を取り此四と合して六とある故六進の一十と云て

⑤へ一と入れ⑥七⑥六とある此七と法の九と見合せ七九  
 六十三と⑥⑥あり引き又⑥より四ツ次の⑥の処あり⑥の  
 七と法の末の一と見合せ一七が七と⑥の桁みて引き⑥の  
 十と引処あり以下之れよあらへて是あり除尽て八十七端あり  
 引くあり以下之れよあらへて是あり除尽て八十七端あり  
 乗算の術よ曰く実の末七の桁より法の桁数四位を退ぞき  
 ⑥の桁みて此七と法の末の一と見合せ一七が七と⑥の桁  
 へ入れ又二桁進とて⑥の七と法の九と見合せ七九六十三  
 を⑥⑥へをき又左の桁へ移り此七と法の首らの六と見合  
 せ六七四十二と云て七と四よ作り次の桁へ二と入れ④四  
 ④八④三④空④七とある又実の首ら八より法の桁数四位  
 退ぞき④の処よて此八と法の末の一と見合せ一八が八と

②の桁へ入れ又二位進④の処より④の八と法の九と見  
 合せ八九七十二と③④へ入るよ④よ四ある故四の内三と  
 取り七よ三とまの十と云て十と④の桁八の処へ入べきま  
 れどもぐ此十をちうみてかりまき此十を八と法のかつら  
 乗りの数より④の八といま法のかつら知る数あり  
 ④の桁へ二と入れを十よつまご故とま拂ふ④の処へ一  
 と入れ③二④空とある又左の桁へ移り此八と法の首らの  
 六と見合せ六八四十八と云て八を四よ作り次の桁へ八と  
 入るよ先よ二ある故その二を取り八よ二とまの十と云て  
 ⑤の桁へ一と入れ五とある又先よちうよりさる一と入  
 れ⑥⑦空⑧空とある是れ乗けかろ元の六十〇万〇

三百八十七端と知ゆるあり

酒三十一万二千九百八十八駄と七千九百八十二駄ツ一艘  
 の船は積む時を幾艘の船あるや 答 三十九艘



見七  
 除聲を総て七の段  
 の声を用ひ除れぬ  
 時を作九の七と云  
 ひ引れぬ時を帰一  
 陪七といふ

除算の術は曰く右番の如く進ま法の首らの七と以て突の



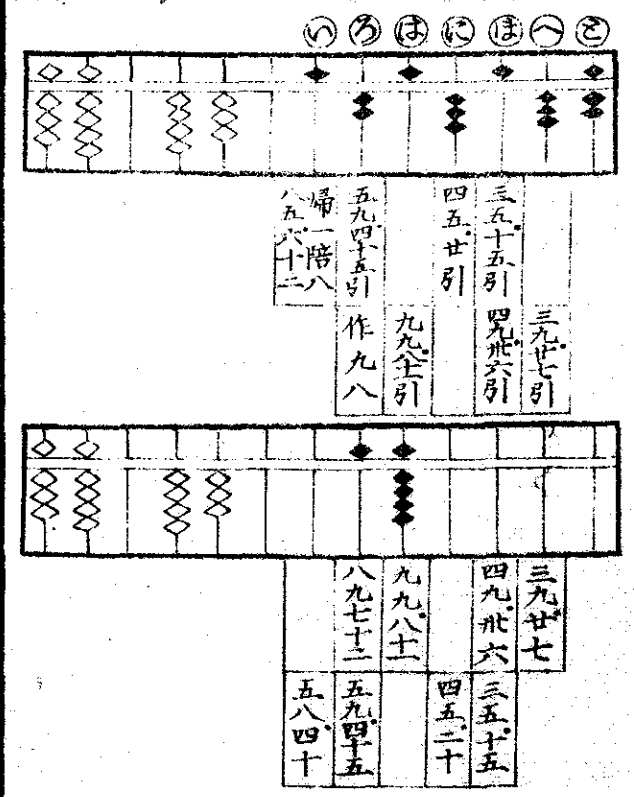
首らの三七七三四十二と除り④④三とある此四と法の  
 九と見合せ四九三十六③④よみて引む故よ四の内一と取り  
 帰一陪七と云て次へ七を入れ③十よつちも数よみて④の三  
 と法の九と見合せ三九廿七と③④よみて引き④七④四と各  
 る又④の三と法の八と見合せ三八廿四と④④よみて引き又  
 ④の三と法の二と見合せ二三六と④よみて引む④一④八  
 ④三とある又法の首らの七と以て④の七と作九の七と除  
 り④九④八とある此九と法の九と見合せ九九八十一と④  
 ④よみて引き又④の九と法の八と見合せ八九七十二と④④  
 よみて引き又④の九と法の二と見合せ二九十八と④④よみて  
 引む除り尽て三十九艘と知るあり

衆算の術は曰く右番の如く左実の末九の術より法の桁  
 数四位退ぞき④の処よみて此九と法の末の二と見合せ二九  
 十八と④④へ入る又④の九と法の八と見合せ八九七十二  
 と④④へ入れ又④の九と法の九と見合せ九九八十一と④  
 ④へ入れ又④の九と法の首らの七と見合せ七九六十三と  
 云て九と六よ作り次へ三と入れ④七④一④八④三④八と  
 あり又実の首ら三の桁より法の桁数四位退ぞき④の処よ  
 て此三と法の末の二と見合せ二三六と④へ入れ又④の  
 三と法の八と見合せ三八廿四と④④へ入れ又④の三と法  
 の九と見合せ三九廿七と④④へ入れ④の桁十又④の三と  
 法の首らの七と見合せ三七廿一と云て三と二よ作り次へ

八景 壱力已 卷一

一と心れ元の三十一万二千二百九十八駄とゆゑあり

兵卒五百廿五万三千五百三十七人七八万九千〇四十三隊  
 小配布する時を一隊何程ありや 答 五十九人



見八  
 除聲を総て八の段  
 の声を用ひ除れぬ  
 時を作九の八と云  
 ひ引れぬ時を帰一  
 陪八とり

除算の術は曰く右番の如くをさ法の首らの八を以て実の  
 首らの五と八五六十二と除り①六②四とある此六と法の  
 九と見合せ六九五十四③はめて引を故よ六の内一と取り  
 帰一陪八と云て④へ八を入るよ二あるゆへ二をちうお  
 かりおきの⑤の五と法の九と見合せ五九四十五とあるはめて  
 引よ⑥めて二を取りちうよかりとる二と合して四十引と  
 一次にて五と引き⑦八⑧空とある又⑨の五と法の四と見  
 合せ四五廿七⑩めて引き又⑪の五と法の三と見合せ三五  
 十五と⑫めて引き⑬三⑭八とある又法の首らの八  
 と以て⑮の八と作九の八と除り⑯九⑰八とある此九と法  
 の九と見合せ九九八十一と⑱めて引き⑲の九と法の四

八見九力己

と見合せ四九三十六と⑤⑥より引き⑦の九と法の三と見  
 合せ三九廿七と⑧⑨より引を除きて五十九人と知る  
 乗算の術より曰く右下番の如くをき実の末九の処より法の  
 桁数五位退ぞき此九と法の末の三と見合せ三九廿七と⑩  
 ⑪へをき左の桁へ移り⑫の九と法の四と見合せ四九三十  
 六と⑬⑭へ入れ又二桁進⑮の九と法の九と見合せ九九  
 八十一と⑯⑰へ入れ又左の桁へ移り此九と法の首らの八  
 と見合せ八九七十二と云々九を七より作り次へ二を入れ⑲  
 ⑳㉑空㉒一㉓三㉔八㉕七とある又㉖の五より法の桁数五  
 位退ぞきの五と法の末の三と見合せ三五十五と㉗㉘へ  
 入れ左の桁へ進㉙の五と法の四と見合せ四五廿と㉚へ

入れ二桁進㉛の五と法の九と見合せ五九四十五と㉜  
 へ入るふ㉝の八あるゆへ此内六を取り四より六とをの十と  
 云て十と㉞へ入るあまどもまぐちうよかりおき㉟へ五を  
 入れの二㊱五とある㊲の五と法の首らの八と見合せ五八  
 四十と云て五と四より作り是へちうよかりと一を入れ元  
 の五百廿五万三千五百三十七人とある  
 米九百〇〇万八千八百六十〇石三斗と九十九万八千七百  
 六十五人よ配分ある一人分と問 答 九石〇二升  
 除算の術より曰く後番の如くをき法の首らの九と以て実の  
 首らの九と作九の九と除り㊳九の九とある㊴の九と法の  
 首らより二桁めの九と見合せ九九八十一と㊵の九より引き

八景 算力已 卷一 三十一 算術



の桁数六位退ぞき此二と法の杖の五と見合せ二十五と  
 へ入れ④の二と法の六と見合せ二六十二と⑤へ入れ④  
 の二と法の七と見合せ二七十四と⑥へ入れ④の二と法  
 の八と見合せ二十八十六と⑦へ入れ④の二と法の九と見  
 合せ二十九十八と⑧へ入れ④の二と法の首らの九と見合  
 せ二十九十八と云々二と一より作り次の桁へ八と入れ④  
 九④九④七④五④三とある又実の首ら九の桁より法の桁  
 数六位退ぞき此九と法の末の桁五と見合せ五九四十五と  
 ①へ入れ又②の九と法の六と見合せ六九五十四と③  
 へ入れ④の九と法の七と見合せ七九六十三と④へ入れ  
 ⑤の九と法の八と見合せ八九七十二と⑥へ入れ⑦の九

と法の九と見合せ九九八十一と④へ入れ⑤の九と法の  
 首らの九と見合せ九九八十一と云々九と八より作り次の桁  
 へ一と入れ元の九百〇〇万八千八百六十〇石三斗をゆる  
 此他右の術例と推考し後の復習題と研究をべし

加減復習題

六錢	九錢	十七錢	此三件相併べ如何	答三十二錢
八錢	十一錢	十四錢	同断	答三十三錢
十二錢	十四錢	八錢	同断	答三十四錢
十六錢	七錢	十二錢	同断	答三十五錢
十四錢	七錢	十五錢	同断	答三十六錢
十三錢	八錢	十六錢	同断	答三十七錢

相供

答三十八錢

五錢 七錢 九錢 十七錢

答三十九錢

九錢 六錢 八錢 十六錢

答四十錢

七錢 九錢 十一錢 十三錢

答四十八錢

九錢 十一錢 十三錢 十五錢

答五十錢

八錢 十一錢 十四錢 十七錢

答五十六錢

十一錢 十三錢 十五錢 十七錢

答六十三錢

十四錢 廿七錢 九錢 十三錢

答六十六錢

七錢 十六錢 廿四錢 十九錢

答七十二錢

十九錢 廿一錢 十七錢 十五錢

答七十七錢

廿九錢 十七錢 十三錢 十八錢

答八十五錢

廿七錢 三十六錢 十三錢 九錢

答九十錢

十四錢 三十二錢 十八錢 廿六錢

答九十九錢

三十一錢 十四錢 三十九錢 十五錢

答一〇五錢

十二錢 廿四錢 三十七錢 三十二錢

答一〇十一錢

廿五錢 三十六錢 十七錢 三十三錢

答一〇廿錢

三十二錢 十九錢 四十一錢 廿八錢

答一〇三十錢

四十一錢 廿四錢 四十三錢 廿二錢

答一〇四十二錢

廿四錢 三十七錢 四十八錢 三十三錢

答一〇五十錢

四十二錢 七十四錢 十六錢 十八錢

答一〇六十一錢

廿九錢 四十三錢 廿七錢 六十二錢

答一〇七十三錢

五十七錢 五十四錢 四十九錢 十三錢

答一〇七十七錢

六十五錢 廿四錢 三十六錢 五十二錢

答一〇七十七錢

三十七錢，五十一錢三厘，廿七錢，七十四錢五厘。

答一四八十九錢八厘。

三十六錢九厘，九十二錢，廿八錢，四十三錢。

答一四九十九錢九厘。

六十九錢，八十四錢二厘，四十六錢八厘，十三錢。

答二四十三錢。

四十三錢二厘，三十〇錢七厘，八十一錢一厘，六十五錢。

答二四廿錢。

五十六錢，九十三錢一厘，六十七錢，三十一錢九厘。

答二四四十八錢。

八十三錢二厘，五十一錢，七十二錢三厘，四十九錢。

答二四五十五錢五厘。

七十一錢二厘，九十二錢五厘，八十一錢，三十九錢三厘。

答二四八十四錢。

三十二錢一厘，一四廿一錢，九十八錢七厘，四十三錢二厘。

答二四九十五錢。

四十三錢二厘，三十八錢，一四廿三錢，九十九錢三厘。

答三四〇三錢五厘。

三十四錢二厘，一四九十一錢，四十三錢六厘，七十六錢。

答三四四十五錢六厘。

一圓廿三錢，九十七錢八厘，八十九錢，五十〇錢二厘。

答三四六十錢。

九十八錢 七十三錢七厘 一圓十一錢一厘 一圓四十九錢三厘 答四圓三十二錢一厘

一圓廿九錢 八十七錢六厘 二圓十三錢一厘 七十〇錢三厘 答五圓

八十三錢二厘五毛 一圓三十七錢四厘 二圓十錢四厘 五毛 三圓三十三錢三厘 答七圓六十五錢四厘

二圓三十九錢 三圓〇五錢 一圓三十四錢九厘 四圓三十二錢二厘 答十一圓十一錢一厘

一圓四十八錢三厘 二圓三十七錢四厘 九圓廿九錢 十六圓八十五錢三厘 答三十圓

五圓廿七錢九厘 九圓八十七錢 十二圓三十四錢 廿六

圓八十三錢二厘 答五十四圓三十二錢一厘

七圓六十五錢三厘 十一圓十一錢一厘 四十三圓廿一錢 廿八圓〇二錢六厘 答九十四

三十五圓十〇錢四厘 四十三圓七十二錢 六十二圓八十一錢 廿九圓〇三厘 答百七十〇圓六十三錢七厘

九十七圓六十五錢 八十九圓廿三錢七厘 六十二圓八十錢 五十五圓三十一錢三厘 答三百〇五圓

百九十八圓五十六錢 七十五圓十二錢 三百廿七圓廿八錢 百六十四圓廿七錢一厘 答七百六十五圓廿三錢一厘

九十六圓五十四錢三厘 二百四十二圓三十八錢 三百〇五圓八十六錢 三百五十五圓廿一錢七厘 答千圓



減去算の復習と答式の数と書き始めより順次に相減ト  
空とゆゑ時を合算をへー

兼除復習題

米	二万五千俵と二ツ子帰り何程	答万二千五百俵	
金	千四百六十八圓	二帰を	答七百三十四圓
同	千六百八十圓	三帰を	答五百六十四圓
物數	二千五百廿個	三帰を	答八百四十個
同	千〇八十個	四帰を	答二百七十個
麥	三百三十二俵	四帰を	答八十三俵
同	千二百九十俵	五帰を	答二百五十八俵
金	三千四百七十箱	五帰を	答六百九十四箱

九

同	千四百十圓	六帰を	答二百三十五圓
米	四万千七百石	六帰を	答六千九百五十石
同	千〇〇一俵	七帰を	答百四十三俵
酒	四千〇五十三石	七帰を	答五百七十九石
同	万〇百廿樽	八帰を	答千二百六十五樽
同	三万千〇四十駄	八帰を	答三千八百八十駄
茶	万千百十五斤	九帰を	答千二百三十五斤
同	五万千百十一貫目	九帰を	答五千六百七十九貫目
結	五百三十九端と十一人ふか		答四十九端
同	七百五十六匹	十二除を	答六十三匹
同	千二百四十八卷	十三除を	答九十六卷

八巻力已 卷一 四十一 頁天

綿七百九十八貫目	十四除	卷五十七貫目
同千百十貫目	十五除	卷七十四貫目
物数千。廿四	十六除	卷六十四
同 三百廿三	十七除	卷十九
洋酒四千八百六十瓶	十八除	卷二百七十瓶
同 千五百三十九箱	十九除	卷八十一箱
洋銀七百七十七ドル	廿一除	卷三十七ドル
同 千六百七十二ドル	廿二除	卷七十六ドル
同 千百。四フランク	廿三除	卷四十八フランク
旧貨千六百九十二両	廿四除	卷七十。両二步
同 千。五十両	廿五除	卷四十二両

同 二百四十七両	廿六除	卷九両二步
旧銀五百十三匁	廿七除	卷十九匁
同 百五十六匁八分	廿八除	卷五匁六分
同 二千五百廿三貫目	廿九除	卷八十七貫目
旧錢千九百三十四貫百文	三十。人七分	配分
		卷六十三貫文
同 十三貫九百五十文	三十一除	卷四百五十文
紙幣二千四百九十六枚	三十二除	卷七十八枚
同 二千百四十五箱	三十三除	卷六十五箱
同 九百十八包	三十四除	卷廿七包
旧銀二貫四百九十五匁六厘五厘	三十五半	除

答 七十〇目三分

綿千二百九十六斤 三十六除 答 三十六斤

同六百六十六丸 三十七除 答 十八九

同二千三百五十六貫目 三十八除 答 六十二貫目

船數五百八十五艘 三十九除 答 十五艘

兵員三十七万〇七百六十八人七十四〇隊三分五分

答 九千二百員

酒千三百九十四挺 四十一除 答 三十四挺

同三千六百五十四樽 四十二除 答 八十七樽

同千百十八駄 四十三除 答 廿六駄

同百五十一石三斗 四十四半除 答 三石四斗

大豆二千九百廿五石 四十五除 答 六十五石

同 四石七斗三升八合 四十六除 答 一斗〇三合

同 三千九百〇一俵 四十七除 答 八十三俵

同 三千六百駄 四十八除 答 七十五駄

金千三百七十二ランス 四十九除 答 廿八ランス

同三百七十八圓七十五錢 五十〇人半ノ配分ト

答 七圓五十錢

同四千四百三十七箱 五十一除 答 八十七箱

同九百八十八封 五十二除 答 十九封

同二千五百九十七圓 五十三除 答 四十九圓

同十六圓四十一錢六厘 五十四除 答 三十〇錢四厘

筆四千〇十五對 五十五除 卷七十三對

同三千三百〇四本 五十六除 卷五十九本

同二千三百九十四軸 五十七除 卷四十二軸

同三千六百五十四箱 五十八除 卷六十三箱

墨三千九百五十三挺 五十九除 卷六十七挺

同二千三百七十九箱 六十一除 卷三十九箱

鉛筆五千二百〇八夕アス 六十二除 卷八十四夕アス

同 四千九百十四本 六十三除 卷七十八本

薪五千八百八十八掛 六十四除 卷九十二掛

同千七百五十五束 六十五除 卷廿七束

同二千五百〇八貫目 六十六除 卷三十八貫目

茶九百三十八本 六十七除 卷十四本

同三百〇六斤 六十八除 卷四斤半

同二千四百十五袋 六十九除 卷三十五袋

材木三万七千三百十二本 七十〇四分除 卷五百三十本

同 五千百十二枚 七十一除 卷七十二才

同 千三百六十八肩 七十二除 卷十九肩

同 千六百七十九挺 七十三除 卷廿三挺

板五百五十五坪 七十四除 卷七坪半

同七千〇五十枚 七十五除 卷九十四枚

同万三千三百間 七十六除 卷百七十五間

同万六千〇九十三束 七十七除 卷二百〇九束

紙二百七十三九	七十八除	答	三九半
同四千二百六十六締	七十九除	答	五十四締
同万八千五百三十八帖	八十〇六分除	答	二百三十帖
同六千百五十六束	八十一除	答	七十六束
土六千三百十四坪	八十二除	答	七十七坪
同六百五十一坪三合	八十三半除	答	七坪八合
同五万〇六百五十二荷	八十四除	答	六百〇三荷
同三千九百十車	八十五除	答	四十六車
結九千三百七十四匹	八十六除	答	百〇九匹
同二百八十九丈七尺一寸	八十七除	答	三丈三尺三寸
同千九百八十尋	八十八除	答	廿二尋半

同三千七百三十八端	八十九除	答	四十二端
藥品六千二百七十九兩	九十一除	答	六十九兩
同四百五十〇貫八百目	九十二除	答	四貫九百目
同千七百七十二斤七分	九十三三分除	答	十九斤
同三万千三百〇二袋	九十四除	答	三百三十三袋
田地百〇八町三反	九十五除	答	一町一反四畝
同三百〇七步二合	九十六除	答	三步二合
町地四千五百五十九坪	九十七除	答	四十七坪
耕地二百八十四町二反	九十八除	答	二町九反
區數九千八百〇一區	九十九除	答	九十九區
市街万二千六百六十九町	百〇三除	答	百廿三町

馬車	四十四万九百十輛	百〇七除	答	四千百三十輛
人力車	九千〇〇六輛	百十四除	答	七十九輛
弓	三万六千四百六十二張	百十八除	答	三百〇九張
矢	四千四百廿八筋	百廿三除	答	三十六筋
鞍	八千六百四十三張	百廿九除	答	六十七張
馬	二万六千九百十匹	百三十八除	答	百九十五匹
同	万五千九百九十六頭	百七十二除	答	九十三頭
同	万〇九百廿七架	二百廿三除	答	四十九架
手綱	九千〇十筋	二百六十五除	答	三十四筋
同	六千九百八十四具	二百九十一除	答	廿四具
刀	二万五千五百五十六腰	三百十七除	答	六十八腰

同	万七千五百七十八本	三百七十四除	答	四十七本
鞞	四万〇二百廿八腰	四百五十二除	答	八十九腰
炮	五万千〇五十七挺	五百四十九除	答	九十三挺
車炮	十一万九千百〇五車	五百八十一除	答	二百〇五車
同	四万五千八百〇六臺	六百十九除	答	七十四臺
鞍	二万四千〇十六口	六百三十二除	答	三十八口
轡	四万〇〇六十八口	七百四十二除	答	五十四口
軍刀	四万八千〇五十佩	七百七十五除	答	六十二佩
鐙	四万〇二百七十二匙	八百三十九除	答	四十八足
同	二万〇百九十四搯	八百七十八除	答	廿三搯
鞍覆	五万千三百五十二搯	九百十七除	答	五十六搯

泥障六万。二百六十四指。九百七十二除。答六十二指。

靴足袋三万。三百六十三足。千。四十七除。答廿九足。

长刀四万六千四百四十五柄。千三百廿七除。答三十五柄。

鎗十三万七千九百五十二筋。千九百十六除。答七十二筋。

具足十六万。九百。二兩。二千五百五十四除。

答六十三兩

太鞍十七万。千。五十九箇。三千四百九十一除。

答四十九箇

切形廿二万二千。〇。〇。具。四千六百廿五除。答四十八具。

衣服八万七千三百十二重。五千百三十六除。答十七重。

袴五十。万七千五百七十二行。五千九百。〇。二除。

答八十六行

毛氈十六万八千六百三十六陣。

答廿六陣

綸子十三万八千。〇。十六卷。

答十九卷

笛六十。万五千四百六十八管。

答七十四管

鶴四十一万八千百七十五羽。

答四十三羽

鷄七十九万七千九百十六番。

答五十九番

鷹百五十九万四千〇廿四居

四万千九百四十八除

答 三十八居

鬼五百十九万〇六百九十六取

七万二千〇九十三除

答 七十二取

子魚二百五十一万七千六百十五枚

九万三千二百四十五除

答 廿七枚

鰯九百七十五万三千〇廿四本

十二万三千四百五十六除

答 七十九本

子鰹七百六十二万〇八百三十二連

廿三万八千五百五十一除

答 三十二連

同 三千二百九十三万二千百十六節

三十九万二千〇四十九除

答 八十四節

錫千八百五十二万〇三百十五連

四十三万〇七百〇五除

答 四十三連

章魚七千四百十六万六千六百五十八盃

七十八万九千〇〇七除

答 九十四盃

鯛千六百十二万二千三百〇七折

九十四万八千三百七十一除

答 十七折

同 九千二百五十九万二千五百廿五掛

百廿三万四千五百六十七除

答 七十五掛

乗算を前の解例の如く答式の数とをき法数と乗する時  
を問題の数より復するあり此数條と欲く復習すべし



金銭雜穀の相場割およりび其他の諸件日用の算法多く比例法に關らざるなり故に比例法と會得し之と用ふる時其術大に簡易あり因て此編初めは比例法と説明を初學よく此術理と研究せむ日用の算法思ひ半をよ過ん

比例法説明

比例法を同ト規矩と比較し求むる法あり因て同矩とも云ふ假令を一ツの價二厘よして二ツの價四厘三ツの價六厘ふれを皆同矩あり又一ツの價一錢五厘よして三ツの價四錢五厘四ツの價六錢の如き皆同ト割合を累ねたる物あるをかく同矩あり是等と比較して其他の數と求むるに又之を反して一ツの價二錢よして二ツ

の價三錢とつゝ

時を一ツより二

ツと其割合減ト

つゝのあはれを

同矩あらむ故に

比例を用ゆる

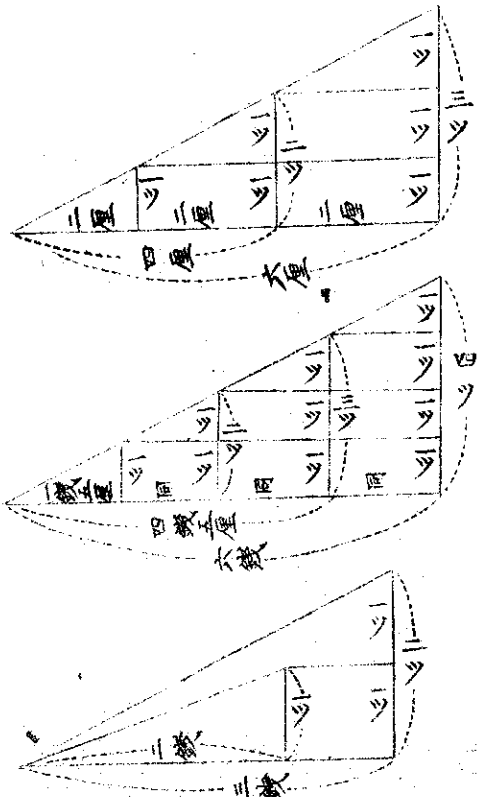
らむ下音の如し

比例法を前より知る處の割合の數二ツを以て後の一ツの

數と比例し其割合の數一ツを求るあり其法求る處の物

は對する物を(三)率よ置き之と同類の物と(一)率よ置き此

(一)率よ對合する物よして求る物と同類の物と(二)率よ置き



き而して(一)率(二)率(三)率と乘(一)率を以て除き求る此の数を  
とゆり因て之を三率法と由云ふ尚と左に詳説を

○假令を柿三ツの價二錢ある時柿廿一の價を求るよと

(一)三ツ (二)二錢 (三)廿一よ若干と此の如く(一)(二)(三)と珠  
盤の左の始めに三ツを置き(一)と(二)と(三)と珠の数を二錢  
と置き(二)と(三)と珠の数を二錢と置き(一)と(二)と(三)と珠の  
りを置き而して(二)の二錢よ(三)の廿一と乘(一)四十二錢と

ある(一)の三ツを以て除き其價十四錢と知るあり

○又柿三ツの價二錢の時十四錢よ幾何あるやと云ふ時と

(一)二錢 (二)三ツ (三)十四錢よ若干と此の如く左の初の

よ二錢を置き(一)と(二)と(三)と珠の数を二錢と置き(一)と(二)と(三)と珠の  
其次の(三)よ求る数を對合する十四錢同類ありと置き而  
して(二)の三ツよ(三)の十四錢を乘(一)四十二錢とある(一)の  
二錢を以て除き其数廿一とゆりあり

○又十四錢よ柿廿一あり二錢よ幾何あるやと云ふ

(一)十四錢 (二)廿一 (三)二錢よ若干と此の如く左の始め  
の(一)よ十四錢を置き此對合の数廿一と次の(二)よ置き又  
次の(三)よ求る数を對合する(一)と同類の数二錢を置き而  
して(二)の廿一よ(三)の二錢を乘(一)四十二錢とある(一)の十  
四錢を以て除き其数三ツと知るあり

○又十四錢よ柿廿一あり柿三ツの價を問ふ時と

(一) 廿一 (二) 十四錢 (三) 三ツよ若干と此の如く初めの (一)  
 よ廿一とをき此對合の數十四錢と (二) よをき (三) よ求る數  
 の對合よりて (一) と同類ある數三ツとをき而して (二) の十  
 四錢よ (三) の三ツと乘ト四十二錢とある (一) の廿一を以て  
 除き其價二錢とゆるあり

○ 又柿三ツの價二錢ある時と一ツの價幾何と云ふ時と  
 (一) 三ツ (二) 二錢 (三) 一ツよ若干と此の如く初めの (一) よ  
 三ツとをき此對合の數二錢と (二) よをき (三) よ求る處よ對  
 合ある (一) と同類の數一ツとをき而して (二) の二錢よ (三) の  
 一ツと乘一錢とある (一) の三ツを以て除き一ツの價六  
 厘六毛六六余とゆる 因よ説く一を以て乘除する

りのちをきべて同數とゆるゆへよ乘除とあるはして其品  
 位を代りて他とをき之よある

○ 又十四錢よ柿廿一ある時と一ツの價幾何あると云ふ  
 (一) 廿一 (二) 十四錢 (三) 一ツよ若干と此の如く初めの (一)  
 よ廿一と置き此對合の數十四錢と (二) よをき (三) よ求る處  
 よ對合ある (一) と同類の數一ツとをき而して (二) の十四錢  
 に (三) の一ツと乘ト十四錢とある (一) の廿一を以て除き一  
 ツの價六厘六毛六六余とゆるあり

○ 又柿廿一の價十四錢ある時と一錢よ柿幾何あると云ふ  
 (一) 十四錢 (二) 廿一 (三) 一錢よ若干と此の如く初めの (一)  
 よ十四錢とをき此對合の數廿一と (二) よをき (三) よ求る處

又柿一ツの價三厘五毛ある時數廿八の價と問ふ時と  
 一ツ (二) 三厘五毛 (三) 廿八ニ若干と此の如く初めの  
 一ツとをきき此對合の價三厘五毛と (二) をきき (三) を求  
 る処に對合ある (一) と同類の數廿八をきき而して之より  
 の三厘五毛と乘し其價九錢八厘と知る 乃至 (一) を一  
 よりて一の數あるゆへ除るとあるをさるるなり

鳥越民吉再校

小學塵劫記卷之一終

- 二之卷
- 掛物の算廿問同解
  - 尺物の算十五問同解
  - 内外増減算五問同解
  - 盈虧算四問同解
  - 約分二問同解
  - 加減分二問同解
  - 除分二問同解
  - 復習題五十六問同答式
  - 掛目の算廿問同解
  - 日時の算十六問同解
  - 貸借利足算十五問同解
  - 差分算十五問同解
  - 命分一問同解
  - 衆分二問同解
  - 杉栞の算五問同答解

次編 目錄

開立

勾股

幾何

點竄

開平

面積

體積

地方

明治小學塾劫記卷之二

福田理軒著  
花井 静枝

算物の算

米一石の價三圓八十錢の時金五千七百圓より米何程あるや  
答 千五百石

術 (一) 三圓八十錢 (二) 一石 (三) 五千七百圓 故より (一) の  
三四八十錢を以て (二) の五千七百圓を除き千五百石と知  
る (三) の一石を乗ざらるものを前より示す如く一の數ある  
へあり他之よりある

二 麥五百六十七石八斗の代金千四百十九圓五十錢ある時一石の相場と問  
答 二圓五十錢

術 (一) 五百六十七石八斗 (二) 千四百十九圓五十錢 (三) 一石 故よ (一) の五百六十七石八斗を以て (二) の千四百十九圓五十錢と除き二圓五十錢とゆゑあり

三 金一圓よ米一斗二升五合ある時米三石七斗の價幾何あるや  
答 廿九圓十錢

術 (一) 一斗二升五合 (二) 一圓 (三) 三石七斗 故よ (一) の一斗二升五合を以て (二) の三石七斗を除き廿九圓六十錢とゆゑあり

四 一錢よ米三合二タの時一石の相場幾何あるや

答 三圓十二錢五厘

術 (一) 三合二タ (二) 一錢 (三) 一石 故よ (一) の三合二タを以て (二) の一石を除き三圓十二錢五厘と知るあり

答 九百八十石

五 三斗五升容の米二千八百俵あり此石數幾何あるや  
術 (一) 一俵 (二) 三斗五升 (三) 二千八百俵 故よ (二) の三斗五升を (三) の二千八百俵に乗ず九百八十石と知る

答 六圓六十七錢五厘

六 米一升の代八錢九厘の時七斗五升の代幾何あるや  
術 (一) 一升 (二) 八錢九厘 (三) 七斗五升 故よ (二) の八錢九厘を (三) の七斗五升に乗ず六圓六十七錢五厘と知る

七米三十七石五斗と四斗二升俵より幾何の俵数あるや

答 八十九俵ト端米一斗二升

術 (一) 四斗二升 (二) 一俵 (三) 三十七石五斗 故よ(一)の

四斗二升を以て(三)の三十七石五斗を除き八十九俵を以

て残り一斗二升あり之と端米とを

八醬油一樽八升容より其代六十錢ある時ハ一升を幾何よ

當るや 答 七錢五厘

術 (一) 八升 (二) 六十錢 (三) 一升 故よ(一)の八升を以て

(二)の六十錢を除き七錢五厘と知る

九油一升の價廿七錢四厘より四斗五升の代を問ふ

答 十二四三十三錢

術 (一) 一升 (二) 廿七錢四厘 (三) 四斗五升 故よ(二)の廿

七錢四厘よ(三)の四斗五升を乘ト十二四三十三錢を以

石炭油一升の價廿五錢六厘ある時を金八四よ幾何あるや

答 三斗一升二合五タ

術 (一) 廿五錢六厘 (二) 一升 (三) 八四 故よ(一)の廿五錢

六厘を以て(三)の八四を除き三斗一升二合五タを以

酒薦包一挺の價四四九十錢より此枡容三斗二升あり内

樽代十錢を引去る時を一升の價幾何よ當るや

答 十五錢

術 (一) 三斗二升 (二) 四四九十錢 減 十錢 (三) 一升 故よ

四四九十錢の内十錢を減ト四四八十錢とある(一)より(一)

の三斗二升と以て除き十五錢とゆる

三酒一升の價十八錢より七升の券紙と以て一升三十一錢

五厘の美淋酒と代り時を幾何とゆるや 答四升

術 (一) 三十一錢五厘 (二) 一升 (三) 七升 米十八錢 故よ

十八錢とをき七升と粟ト百廿六錢とある (三) と (一) の三

十一錢五厘と以て除き美淋四升とゆるあり

三上酒一升の代廿一錢より下酒一升の代十二錢五厘ある

時之と合して一升と十四錢八厘八毛も當るとりしかのく

幾何と合もるや 答 上二合八勺 下七合二勺

術 (一) 廿一錢 減十二錢五厘 (二) 一升 (三) 十四錢八厘八

毛 減十二錢五厘 故よ十四錢八厘八毛の内十二錢五厘

と減ト二錢三厘八毛とある (三) と又廿一錢の内十二錢

五厘と減ト八錢五厘とある (一) と (二) 以て (三) の二錢三厘八

毛と除き上酒二合八勺とゆる之と一升の内減ト下酒七

合二勺と知るあり

二四一升の價十二錢の醬油五升と一升よ廿十六錢の上品と換

る時を幾何とゆるや 答 上醬油三升七合五夕

術 (一) 十六錢 (二) 五升 (三) 十二錢 故よ (二) の五升よ (三)

の十二錢と粟ト六十錢とある (一) の十六錢と以て除き三

升七合五夕と知る乃至前の二題および此題と次の題の

如きと轉比例とり (一) と (三) と轉變して其術とゆるあり

五 四斗三升容の米二百俵と三斗容よ直一何程の俵數ありや



答 二百八十六俵と端米二斗

術 (一) 三斗 (二) 二百俵 (三) 四斗三升 故よ (三) の二百俵

よ (三) の四斗三升と兼ト八十六石とある (一) の三斗を以て

除き二百八十六俵と以て残り二斗あり之と端米とを

六米一石の相場六田廿錢替よて二百石と同く五田替よて六

百石と同く五田八十錢よて三百石と買ふより平均相場幾

何よ當りや 答 五田四十三錢六厘余

術 (一) 二百石加 六百石加 三百石 (二) 六田廿錢 二百石

加五田 兼 六百石加 五田八十錢 兼 三百石 (三) 一石 故よ

二百石と六百石と三百石と相併べ千百石とある (一) と

又六田廿錢よ二百石と兼ト千二百四十田とあると五田

よ六百石と兼ト三千田とあると五田八十錢よ三百石と

兼り千七百四十田とあると三口相併べ五千九百八十田

と以て (二) と (一) の千百石を以て除き五田四十三錢六厘

余と以て不尽の捨りあり

モ 一升の價八錢の大豆と同く七錢の小豆と同く五錢の麥と

三品と金二田七十錢を以ておのく同ト株數よ買んと欲を

幾何ありや 答 一斗三升五合宛

術 (一) 八錢加七錢加五錢 (二) 一升 (三) 二田七十錢 故

よ八錢と七錢と五錢と相併べ廿錢とある (一) と之を以

て (三) の二田七十錢を除き一斗三升五合と以るあり

六四斗容の米二百五十俵あり内五俵の廻りと試るるに一俵

元

を四斗五合あり一俵を四斗三合一俵を四斗二俵を三斗九  
 升二合あり此割合を以て平均一俵の廻し及び総石数如何  
 術 平均一俵三斗九升八合四夕 石数九十九石六斗  
 術 (一)五俵 (二)四斗〇五合加四斗〇三合加四斗〇二俵  
 乘 三斗九升二合 (三)二百五十俵 故よ三斗九升二合よ  
 二俵を乗ト七斗八升四合とある之よ四斗と四斗〇三合  
 と四斗〇五合と加へ一石九斗九升二合とある(二)と(一)  
 の五俵を以て除き三斗九升八合四夕とゆる平均一俵の  
 廻しと(三)の二百五十俵を乗ト九十九石六斗とゆる  
 総石数とを  
 元 遠國へ米四百四十一石積送る時一石よ付五升宛の船賃と

右積米の内よて渡るときは届米及び賃米幾何あるや

答 届米四百廿石 船賃米廿一石

術 (一)一石加五升 (二)一石 (三)四百四十一石 故よ一

石よ五升と加へ一石〇五升とある(一)と(二)以て(三)の四百

四十一石と除き四百廿石とある届米と(三)之と四百四十

一石の内減ト残り廿一石とある船賃米とを

云 金一圓よ付米一斗二升五合替よて五千石買ひ之を西國へ

送り一石よ付九圓廿錢よ賣拂ふと幾何の利益あるや

答 利金六千圓

術 (一)一斗二升五合 (二)一圓 (三)五千石

又 (一)一石 (二)九圓廿錢 (三)五千石 故よ(一)の一斗二

升五合を以て(三)の五千石を除き四万田とある原價より  
 又(二)の九田廿錢よ(三)の五千石と兼ト四万六千田とある  
 賣價より此内原價四万田と減ト残り六千田と利金とを

掛目の算

一 茶三十六斤の價金十一田五十二錢より一斤の價と問

答 一斤の代三十二錢

術 (一)三十六斤 (二)十一田五十二錢 (三)一斤 故よ(一)  
 の三十六斤を以て(二)の十一田五十二錢と除き三十二錢  
 とある一斤の代とを

二 麵麥一斤の價一錢六厘ある時を金一田よ幾何とゆらや

答 六十二斤半

術 (一)一錢六厘 (二)一斤 (三)一田 故よ(一)の一錢六厘  
 と以て(三)の一田百錢と除き六十二斤五とゆら斤數とを  
 煙艸六貫九百目あり之と百六十目一斤とを時を如何

答 四十三斤ト外ニ廿目

術 (一)百六十目 (二)一斤 (三)六貫九百目 故よ(一)の百  
 六十目と以て(三)の六貫九百目と除き四十三斤と残り廿  
 目とゆら

四 同く百六十目一斤よりて八十五斤半あり十斤よ月半斤の  
 入添として此目方如何 答 十四貫三百六十四文  
 術 (一)十斤 (二)十斤 加半斤 (三)八十五斤半 故よ十斤  
 よ半斤と加へ十〇斤五とある(一)より(三)の八十五斤五と

栗ト八百九十七斤七五とある(一)の十斤を以て除き八十  
九斤七七五とある百六十目と栗ト十四貫三百六十四文  
と知る

五 金一匁ふ十俵替の炭一俵の目方六貫二百五十目あり一貫  
目幾何よ當るや 答 一錢六厘

術 (一)十俵 栗六貫二百五十目 (二)一匁 (三)一貫目 故

よ六貫二百五十目よ十俵と栗ト六十二貫五百目とある  
(一)と(二)以て(三)の一匁と除き一錢六厘と知る

六 茶百目の價三十二錢の時百六十目一斤の價幾何あるや  
答 五十一錢二厘

術 (一)百目 (二)三十二錢 (三)百六十目 故よ(二)の三十

二錢よ(三)の百六十目と栗ト五千百廿錢とある(一)の百目  
を以て除き一斤の價五十一錢二厘と知る

七 金一匁よ付麥一斗八升の時一斤の麵麥の價一錢五厘あり  
麥下落して一匁よ付二斗よ至る時々一斤の麵麥の價幾何  
よ賣るや 答 一錢三厘五毛

術 (一)二斗 (二)一錢五厘 (三)一斗八升 故よ(二)の一錢

五厘よ(三)の一斗八升と栗ト廿七錢とある(一)の二斗を以  
て除き一錢三厘五毛と知る

八 珈琲三斤と茶五斤と其價相同ト金十匁よ付茶と珈琲より  
七斤下直ありと云ふ十匁よ付かのく幾何あるや

答 金十匁よ付珈琲十斤〇半 茶十七斤半

術 (一) 五斤減 三斤 (二) 七斤 (三) 三斤 故よ 珈琲 五斤の内茶三斤と減ト二斤とある (一) と (二) の七斤よ (三) の珈琲三斤兼ト廿一斤とある (一) の二斤と以て除き十斤よ付珈琲十の斤半とゆる七斤と加へ茶十七斤半と知る

九 茶三百三十五斤と金百七十五田よ買ひ一斤と六十四錢よ賣る時幾何の利とゆる 答 三十九田四十錢

術 (一) 一斤 (二) 六十四錢 (三) 三百三十五斤 故よ (一) の六十四錢よ (二) の三百三十五斤と兼ト二百十四田四十錢とある賣價ト此内原價百七十五田と減ト利金三十九田四十錢とゆる

一 煙草三百三十斤と代金七十田よて買ひ煙艸八十斤の利と

ゆるとゆる一斤幾何よ當るや 答 廿八錢

術 (一) 三百三十斤減 八十斤 (二) 七十田 (三) 一斤 故よ 三百三十斤の内利の八十斤と減ト残り二百五十斤とある (一) と (二) 以て (三) の七十田と除き廿八錢と知る

二 唐目百十五斤と白目よ直ト幾何あるや乃至唐目一斤と百六十目白目と二百三十目あり 答 白目八十斤

術 (一) 二百三十目 (二) 百十五斤 (三) 百六十目 故よ (一) の百十五斤よ (三) の百六十目と兼ト十八貫四百目とある (一) の二百三十目と以て除き白目八十斤と知る

三 午旁子四又荊芥一又甘草一又防風五分と調合して消毒飲と製此割合と以て目方三百廿五又製とる各幾何あるや

荻 午旁子二百目 荊芥廿草各五十目 防凡廿五匁

術 (一) 四匁加一匁加一匁加五分 (二) 三百廿五匁 (三) 四

匁或一匁或五分 故よ四匁よ一匁と一匁と五分とを加

へ六匁五分とある (一) と (二) 以て (三) の三百廿五匁を除き五

十とある定法と之よ (三) の四匁と兼ト午旁子二百目と

併り又定法五十よ (三) の一匁と兼ト荊芥廿草各五十目と

併り又定法五十よ (三) の五分と兼ト防風廿五匁と知る

綿あり平野目三十六斤と分銅目よ直一何程ありや乃至平

野目を一斤二百廿目よして分銅目一斤も三百目あり

荻 分銅目廿六斤四分

術 (一) 三百目 (二) 三十六斤 (三) 二百廿目 故よ (二) の三

十六斤よ (三) の二百廿目と兼ト七貫九百廿目ある (一) の  
三百目と以て除き廿六斤四分と併り  
分銅目一斤の代銀十八錢の時を平野目一斤幾何ありや

荻 平野目一斤ニ付十三錢二厘

術 (一) 三百目 (二) 十八錢 (三) 二百廿目 故よ (二) の十八

錢よ (三) の二百廿目と兼ト三千九百六十錢とある (一) の三

百目と以て除き十三錢二厘と知る

分銅目一斤の價廿四錢の時平野目七十五斤を幾何ありや

荻 十三四廿錢

術 (一) 三百目 (二) 廿四錢 (三) 七十五斤兼 二百廿目 故

よ七十五斤よ平野目二百廿目と兼ト十六貫五百目とあ

3 (三)と(一)の廿四錢と兼(一)三千九百六十錢とある(一)の  
三百目と以て除き十三目廿錢とゆる

六 綿十五貫九百目あり此代金九目五十四錢あり  
平野目各一斤の代と問  
分銅目及び

答 分銅目十八錢 平野目十三錢二厘

術 (一)十五貫九百目 (二)九目五十四錢 (三)三百目或二

百廿目 故よ(一)の十五貫九百目と以て(二)の九目五十四

錢と除き六錢とある定法と(三)の三百目と兼(一)分銅目

十八錢とゆる又定法六錢よ(三)の二百廿目と兼(一)平野目

十三錢二厘と知るあり

七 一斤の價十八錢の綿と繰て九十目あり繰綿百目を幾何よ

あるや 答 廿錢

術 (一)九十目 (二)十八錢 (三)百目 故よ(一)の十八錢よ

(三)の百目を兼(一)千八百錢とある(一)の九十を以て除き

繰綿百目の代廿錢と知る

六 真綿廿目の價六十四錢あり金一両は幾何あるや

答 三十一又二分五厘

術 (一)六十四錢 (二)廿目 (三)一両 故よ(一)の廿目よ(三)

の一両百錢を兼(一)二千目とある(一)の六十四を以て除き

三十一又二分五厘とゆる

元 錢一錢よ掛目二分八厘の結糸を金一歩の糸を買ふ時幾

何の掛目あるや 答 掛目七又

術 (一) 一錢 (二) 二分八厘 (三) 廿五錢 故よ (三) の二分八厘よ (三) の廿五錢の金一步を乗ト七匁と知る

ドル相場六十二匁五分ある時金百匁は幾何のドルヲ知るや 答 九十六ドル

術 (一) 六十二匁五分 (二) 六十目 (三) 百匁 故よ (三) の六十目よ (三) の百匁を乗ト六千匁とある (一) の六十二匁五分を以て除き九十六ドルと知る 六十目ヲ旧制金一兩の銀也

尺物の算

木綿一尺の價一錢三厘よして二丈一尺の代と問

答 廿七錢三厘

術 (一) 一尺 (二) 一錢三厘 (三) 二丈一尺 故よ (三) の一錢

三厘よ (三) の二丈一尺を乗ト廿七錢三厘と知る

同く一端の代四十錢あり一尺を幾何よ當るや乃至一端の長二丈五尺あり 答 一錢六厘

術 (一) 二丈五尺 (二) 四十錢 (三) 一尺 故よ (一) の二丈五

尺を以て (三) の四十錢を除き一尺の價一錢六厘と知る

布一端の代七十八錢の時二丈三尺の價と問乃至一端を二丈六尺あり 答 六十九錢

術 (一) 二丈六尺 (二) 七十八錢 (三) 二丈三尺 故よ (一) の

二丈六尺の一端を以て (二) の七十八錢を除き三錢とある一尺の價と (三) の二丈三尺を乗ト六十九錢と知るあり

結一匹の價金七匁あり三丈八尺の代幾何あるや乃至二端



と一匹と一匹の長二丈八尺とき

答 四四七十五錢

術 (一) 二端乘二丈八尺 (二) 七四 (三) 三丈八尺 故よ二丈八尺よ二端と乗ト五丈六尺とあるの長 (一) と一以て (二) の七四を除き十二錢五厘とある 一尺の (三) の三丈八尺と乗ト四四七十五錢をゆるあり

五 黒繻子幅一尺八寸長五尺五寸まで價三四十六錢八厘ありいま幅四寸長二尺五寸の拭襟を求る時其價幾何あるや

答 三十二錢

術 (一) 一尺八寸乘五尺五寸 (二) 三四十六錢八厘 (三) 四寸乘二尺五寸 故よ一尺八寸よ五尺五寸と乗ト九百九

十とある (一) と一四寸よ二尺五寸と乗ト百とある (二) と一 (三) の三田十六錢八厘と乗ト三百十六田八十錢とある (一) の九百九十と以て除き三十二錢とゆる 六金の三寸箔二百六十枚と四寸箔よ換る時幾何あるや

答 百四十六枚二分五厘

術 (一) 四寸自乘 (二) 二百六十枚 (三) 三寸自乘 故よ四寸と自乗一十六とある 四寸三寸とも箔よ四角あるのとある三寸よ三寸と乗一十九 故よ四寸よ四寸と乗一十六とあるとよと自乗とゆる (一) と一又三寸よ三寸と乗ト九とある (二) と一 (三) の二百六十枚と乗ト二千三百四十枚とある (一) の十六とりりて除き百四十六枚二分五厘とゆる

七 三尺廻りの柴三百束あり之と五尺繩は結び直し幾何あるや  
 答 百〇八束

術 (一) 五尺自乘 (二) 三百束 (三) 三尺自乘 故は五尺は五尺と乗ト廿五とある (一) と又三尺は三尺を乗ト九とある (二) と (三) の三百束と乗ト二千七百束とある (一) の廿五を以て除き百〇八束と知る

八 長二間幅五寸の木挽賃三錢五厘あり長三間幅八寸の木の挽賃幾何あるや  
 答 八錢

術 (一) 二間乘五寸 (二) 三錢五厘 (三) 三間乘八寸 故は二間は五寸を乗トト〇とある (一) と又三間は八寸を乗ト廿四とある (二) と (三) の三錢五厘を乗ト八十四錢とある

九 材木周り四尺七寸一二四あり此徑幾何あるや  
 答 徑一尺五寸

術 (一) 周法三、一四一六 (二) 一 (三) 四尺七寸一二四 故は (一) の三、一四一六を以て (三) の四尺七寸一二四を除き徑一尺五寸と知る凡そ圓の定法を徑一尺ある時を其周り三尺一寸四分一厘六毛弱ありとを因て右の如し  
 九 太あり徑二尺五寸四五五六あり之と四角は削り幾何あるや  
 答 一尺八寸角

術 (一) 方率一、四一四二 (二) 一 (三) 二尺五寸四五五六 故は (一) の一、四一四二を以て (三) の二尺五寸四五五六を除

き一尺八寸とゆるる儿を徑一尺四寸二分四厘二毛余ある  
田き物と角より削る時其方辺一尺ふるを定法とせ

二 長四間平一尺五寸横九寸の平物あり此寸数と問ふ長二間  
と以て一才  
一本とせ

答 二本七分

術 (一) 才法二 (二) 一本 (三) 長四間 平一尺五寸 乘横九

寸 故より一尺と自乘一三間と乘一三とゆるる (四) の才法と

一長四間より一尺五寸乘一六とある又九寸と乘一八四と

ある (五) と (一) の二と以て除き二本七分と知る

三 長二間の三寸角四百本あり長三間の四寸角より替る時幾  
何あるや

答 百五十本

術 (一) 四寸自乘 三間 (二) 四百本 (三) 三寸自乘 二間

故より四寸より四寸と乘十六とある三間と乘四十八  
とある (一) と (二) 又三寸より三寸と乘九とある二間と乘  
十八とある (三) と (四) の四百本と乘七千二百本とある  
(一) の四十八を以て除き百五十本と知る

三 八寸角長三間の木一本の代金九十六錢あり五寸角長二間  
の價と問

答 廿五錢

術 (一) 八寸自乘 三間 (二) 九十六錢 (三) 五寸自乘 二

間 故より八寸と自乘一六十四とある三間と乘一十九十

二とある (一) と (二) 又五寸と自乘一廿五とある二間と乘一

五十とある (三) と (四) の九十六錢と乘一四千八百錢とあ

る (一) の百九十二と以て除き廿五錢とゆる

四 廣六尺の連子窓は子十五本と立ち時を子の心より心迄の

明幾何ありや 答 三寸七分五厘

街 (一) 十五本 (二) 六尺 (三) 一 故は十五本より一と

加へ 兩殿は明地ニツ 十六とあり (一) (二) の六尺を除き

心より心迄の明三寸七分五厘と知る

五 距離三里八町の処を尺数より直一幾何ありや乃至一里を三

十六町と一町を六十間と一間を六尺とせ

答 四万七千七百六十尺

街 (一) 一里 (二) 三十六町 (三) 三里 故は (二) の三

又 (一) 一町 (二) 六十間 (三) 百十六町 十六町より (三)

(一) 一間 (二) 六尺 (三) 六千九百六十間 の三里と乘

一 百の八町とある八町を加へ町数百十六町とある (三) と

一又 (二) の六十間を乗ト間数六千九百六十間とある (三) と

一又 (二) の六尺と乗ト尺数四万七千七百六十尺と知る

甲時の算

七曜と十干と相値を幾日と経るや 假令相値は迄の間の甲の

答 七十日と経る

街 (一) 一周 (二) 七曜 (三) 十干 故は (二) と七と (三) の十

と乗ト七十日と知る

二 十干と十二支と相値を幾日と経るや 假令甲子の日の再び甲

答 六十日と経る

街 (一) 二周 (二) 十干 (三) 十二支 故は十干と十二支と

共は二倍の教あり仍て二周より(一)とき(二)の十(三)の十  
 二と兼ト百廿とある(一)の二を以て除き六十日と知る  
 三 七曜と十干と十二支と相値も幾日と経るや

答 四百廿日と経る

術 (一)一周 (二)七曜 (三)六十干支 故は前より仍て干支  
 相値一周を六十あり故は(一)より(二)の七と兼り四百廿と  
 以て干支曜再會の距日とを

四 甲匠を三日より一事を成業し匠より其事を六日は成功  
 せりといま其事業と甲匠の兩匠より成業を幾日は成功  
 せりや

答 二日

術 (一)甲日加し日 (二)甲日兼し日 (三)一 故は三日に

六日を加へ九とある(一)より又三日よ六日を兼ト十八と  
 ある(二)より(一)の九を以て除き二日と知る  
 五 甲乙二名の測量史一山の麓を計鎖を引て周測するあり甲  
 乙十六時より周測し乙廿時より周測をとりいま両  
 史同所より左右よかれ共よ之を測る時を幾時間と成功せ  
 りや

答 八時五十三分廿秒

術 (一)甲時加し時 (二)甲時兼し時 (三)一周 故は十六  
 分廿を兼ト三百廿とある(二)より十六分廿を加へ三十六  
 とある(一)より以て(二)の三百廿を除き八時と三十二とあ  
 る之は六十一時のかと兼ト千九百廿とある又三十六と  
 以て除き五十三分と十二とある此十二は六十一分の秒  
 あり

と粟ト七百廿をある又三十六と以て除き廿秒と知る  
男子一人の食料九日分あり之と男女二人の食料とある時  
を七日よりて尽く若し女一人の食料とせを幾日と保つや

答 三十一日半

術 (一) 九日 減 七日 (二) 九日 兼 七日 (三) 一 故よ九の内

七と減し二とある(一)とよま九よ七と兼し六十三とあ

る(二)と(一)の二と以て除き三十日半と知る凡そ是等

の比例の如きを前説の如く同類對合の分解し難きりの

あり皆ふ題辭よ因て比例とゆるめのと知るべし

七

甲し湧泉あり之と一池よ引くよ甲を八時よりて水充ち  
しを九時よりて水充つはま甲し共よ其池よ引くと三時間

よしてし泉と停め甲泉のよて引く時と幾時間あるや

答 二時廿分

術 (一) 七時 (二) 甲時 兼 七時 減 甲時 七時 和 兼 三時 (三) 一

故よ甲八よし九と加へ十七とあるよ三時と兼し五十

一とあると甲八よし九と兼し七十二の内減し廿一とあ

る(二)と(一)のし九と以て除き二時と三とある此三よ六

十と兼し一時の分數 百八十とある又(一)の九と以て除き

廿とある故よ二時廿分とを

八

東西の地より發程とる脚夫あり其距離と知らざれども東  
の脚夫を八日よりて西地よ達し西の脚夫を十日よりて東  
地よ着きべしと云ふいま兩地より同日同時よ發是し歩行

とらと二日よして東の脚夫々事故ありて途中に滞留せり  
西の脚夫今よりその逗留の地よ到るに幾日と経るや

答 五日半

術 (一) 東日 (二) 東日 兼 西日 減 東日 西日 和 兼 二日 (三) 一

故に東八は西十と加へ十八とある二日と兼つ三十六  
とある又東八は西十と兼つ八十の内三十六と減つ残り  
四十四とある(二)と(一)の八と以て除き五日半と知る

九

三子寄集りて書籍と騰写をあり一卷の書を甲は三日よ  
して寫し乙は五日よして寫し丙は六日よして寫すといふ  
此三子よて七卷の書と寫書せし幾日よして成功するや

答 十日

術 (一) 甲日 兼 乙日 兼 丙日 兼 丁日 兼 戊日 兼 己日 兼 庚日 (二) 甲日

兼 乙日 兼 丙日 (三) 七卷 故に三日よ五日と兼つ十五と

あると三日よ六日と兼つ十八とあると五日よ六日と兼  
つ三十とあるとかのめく三位互兼しとると相併べ六十三  
とあると(一)と又三日よ五日と兼つ十五とある再び六

日と兼つ九十とある此の如く三位連兼しとると(二)と  
七卷と(三)と之よ(二)の九十と兼つ六百三十とある(一)の  
六十三と以て除き十日とす

甲乙丙の三工あり甲は三日よて一事を成し乙は其事を四  
日よ成し丙は六日よ成すといふいま其事業を甲丙の二工  
半日當り後乙工其中は加りて成業する時を幾日よ

て成功さるや

答 一日

術 (一) 甲日 兼乙日 加甲日 兼丙日 加乙日 兼丙日 (二) 甲日

兼乙日 兼甲日 丙日 和兼半日 (三) 乙日 故よ三日よ四

日と兼ト十二とあると三日よ六日と兼ト十八とあると

四日よ六日と兼ト廿四とあるとかのく三位互兼トある

と相併べ五十四とある (一) と一三日よ六日と加へ九とあ

るよ半日ありと兼ト四五とあると三日よ六日と兼ト十

八とある内減ト残り十三五とある (二) と一 (三) の四日と兼

ト五十四とある (一) の五十四と以て除き一日と知る

二 男子二人 女子二人 して十五日は成功すべし 業あり 男女力

の比を五と三の如いま男子七名 女子五名 して前の五倍

の業を営むよを幾何の日数あるや

答 廿四日

術 (一) 男七兼力五 加女五兼力三 (二) 十五日 (三) 男二兼

力五 加女二兼力三 兼五倍 故よ七人よ五と兼ト三十五

とあると五人よ三と兼ト十五とあると相併べ五十とあ

る (一) と一二人よ五と兼ト十とあると二人よ五と兼ト六

とあると相併べ十六とある五倍と兼ト八十とある (三) と

一 (二) の十五と兼ト千二百とある (一) の五十と以て徐き廿

四日と知る

一 營と造るよ七ヶ月よて百五十工と以て卒業する約定の

処いま之と六ヶ月よて落成するに幾工を増加するべきや

答 増工廿五人

八 學塾の已

頁



術 (一)六月 (二)百五十人 (三)七月 故よ(二)の百五十  
 (三)の七を乗ト千の五十とある(一)の六よて除き百七十五  
 人とある内百五十人と減ト残り廿五人増人とを  
 三 若干の職人ありて一事と成トよ毎日九時宛働きた十月よ  
 て成功すべきと二月月早く卒業するよ毎日幾時づゝ働く  
 べきや 答 十一時十五分

術 (一)十月 減 二月 (二)九時 (三)十月 故よ十の内二と  
 減ト八とある(一)と(二)の九よ(三)の十と乗ト九十とある  
 (一)の八よて除き十一時と二とゆる此二よ六十刻ありの分  
 と乗ト百とある(一)の八よて除き十五分と知る  
 四 時辰儀あり 昼夜よ五分進む癖あり昨日午正の報声と聞

て改正せり 今午前の八時よ指針まゝ 時を進むと幾分ある  
 や 答 四分十秒

術 (一)廿四時の時数 (二)五分 (三)廿時 故よ昨日午正の初時より午後  
 の十二時よ今午前の八時よ加へ廿時とある(三)と(二)の五と乗ト百とある(一)の  
 廿四よて除き四分と四とある此四よ六十秒のと乗  
 ト二百四十とある又廿四よて除き十秒とゆる  
 五 時辰儀よ正午十二時よ於て時針分針と相重ある三時の後  
 と幾分よて相重あるや 答 三時十六分廿一秒  
 術 (一)十一時 (二)十二時 (三)三時 故よ(二)の十二  
 よ(三)の三と乗ト三十六とある(一)の十一よて除き三時

と三とある此三は六十一と数と数ト百八十とある又十  
 一と以て除き十六分と四とゆゑ此四は六十一と数と数  
 ト二百四十とある又十一と以て除き廿一秒と九とゆゑ  
 此九と分母とリハ十一と分母とリハ故は残数の不尽と  
 十一分の九とを後の各数術は詳説す亦(一)の十一と(二)の  
 十二と定数とを時辰儀と視て其理と考ふべし  
 日数三万日と年月も化をも時々如何五日一年も三百六十  
 天

答 八十二年ニク月十日

術 (一) 三百六十五日 (二) 一年 (三) 三万日 故は(一)の三  
 百六十五と以て(三)の三万と除き八十二年と七十とゆゑ  
 又月の三十と以て此七十と除き二月と十日と知る

内外増減の算

内割外割と假令を十の内三と減ト七とあると内三割  
 と云ひ又十の内三と増ト十三とあると外三割と云ふ  
 利息算等と皆外割より定價の内何割引かどを皆分  
 内割と用ひ故に内増と外引とを其割と以て除くべし内  
 引と外増を其割と以て乗ト其價をゆゑあり因て其位置  
 と二割を百に付せよして二分を百に付二の位あり  
 内二割と外何割は當るや 答 外二割五分

術 (一) 一个減 〇、二 (二) 一 (三) 一 故は一の内〇、二と減  
 ト〇、八とあると(一)より以て(二)の一と除き一二五とある  
 此内原の一と減ト〇、二五とゆゑ二割五分とに

外二割を内何割も當るや 答 内一割六分六厘六毛余

術 (一) 一个加〇二 (二) 一 (三) 一 故よ一〇二と如へ

一、二とふるよ (一) 一と以て (二) の一と除き〇八三三三余

とふる一の内減下内一割六分六厘六毛余と知る

定價金三四七十八錢の物と内三割引よして幾何あるや

答 二田六十四錢六厘

術 (一) 一 (二) 一減〇三 (三) 三田七十八錢 故よ一の内

〇三と減下〇七とある (二) 一 (三) の三田七十八錢と粟下

二田六十四錢六厘と知る

玄米九十石と春き白米八十石とゆる 内外何割減も當るや

答 内一割一分一厘一余 外一割二分五厘

術 (一) 玄米減 白米 (二) 一 故よ九十石の内八

又 (一) 白米 (二) 玄米減 白米 (三) 一 十石と減し十石と

ふる (一) 一 (二) の九十石と以て除き内一割一分一厘余と

ゆる又 (一) の八十石と以て (二) の十石と除き外一割二分五

厘とゆる

五 原價四百田の品と五百田を賣時を内外何程の利割あるや

答 内二割の益 外二割五分の益

術 (一) 賣價減 原價 (二) 一 故よ五百田の内四

又 (一) 原價 (二) 賣價減 原價 (三) 一 百田と減し百田と

ふる (一) 一と五百田と以て除き内二割とゆる又 (二) の四百

田と以て (三) の百田と除き外二割五分と知る

貸借利足算

凡そ利割の時勢より貸借の増減と負数の多少より其稱言と異よきると多し左よ其一二と表示せ

元旧金月利金	元銀月利銀	月利割	即	元年利	同利割
三十兩一歩	奉目五分	〇割〇分三厘三	百廿分ノ一	同十	一割
廿五兩同	同	六分	〇割一分	百分ノ一	同十二
廿兩同	同	七分五厘	〇割二分五厘	百分ノ二五	同十五
十五兩同	同	一分	〇割六分六厘	三百分ノ五	同廿
十兩同	同	一分五厘	〇割七分五厘	二百分ノ五	同三十三
五兩同	同	三分	〇割五分	百分ノ五	同六十六

故よ利割よ於て一割と云ふ時と百兩よ角十兩よ一

分と云ふ時と百兩よ一兩あり一厘或は一朱と云ふ時と百兩に十錢の利あり他を右の表と推し考ふべし  
 一 金八十兩と月一分半の利十五分の一にて四十三ヶ月貸置あり此利金幾何あるや 答 利金五十一兩六十錢

術 ①一 ②〇、〇一五 ③元金 故よ金八十兩とをき  
 ④〇、〇〇一五と兼ト一ヶ月の利金一兩廿錢とある四十三ヶ月と兼ト利金五十一兩六十錢と知る  
 二 金二百五十兩と日廻し三厘一兩三厘也よして七十三日貸あり此利金と問 答 利金五十四兩七十五錢  
 術 ①一 ②〇、〇〇三 ③元金 故よ金二百五十兩とをき ④〇、〇〇三と兼ト七十五錢とある

ノ算力已

三 旧貨の金十兩よ一ヶ月の利金一歩あり此割を以て金五十

二田五十錢と八ヶ月貸を此利金と問 答 十田五十錢

術 (一) 十 (二) 〇、二五の田金一歩 (三) 元金 故よ (一) の十と

以て (二) の〇、二五と除き 〇、〇二五とある (三) の五十二田五

十錢と乗ト一田三十一錢二厘五毛とある (一) の五ヶ月の八ヶ月

月と乗ト利金十田五十錢と知る 利あり

四 一ヶ月九分百各りの利よして金六千田と二ヶ月半貸を此

利金と問 答 利金百十二田五十錢

術 (一) 十二 一年の (二) 〇、九 (三) 一 故よ (一) の十二と

(一) 一 (二) 〇、〇〇七五 (三) 元金 以て (二) の〇、〇九

と除き 〇、〇〇七五と倍る 利割の之と (二) と (三) の六千田

を乗ト四十五田とある 利金の之よ二ヶ月五と乗ト利金

百十二田五十錢と知る

五 金九百田と月一分二厘千分の利よして七ヶ月廿一日貸

あり日割よして此利金と問 答 八十三田十六錢

術 (一) 一 (二) 〇、〇一二 (三) 元金 故よ (三) の九百田を

ま (三) の〇、〇一二と乗ト一月の利金十田八十錢とある

又三十日一割の之と以て廿一日と除き 〇、七とある七ヶ月

六 米二百三十四石と十五ヶ月貸元利合して二百六十七石

三斗四升五合来る此月利割と問 答 月利九朱半

術 (一) 元米 (二) 元利合米 (三) 一 故よ (一) の二百三十四

又 (一) 月数 (二) 〇・一四二五 (三) 一月 石を以て (四) の二

百六十七石三斗四升五合と除き 一四二五とある此内

元一と減ト 〇・一四二五とある次の (一) と (二) の十五を以

て除き 〇・〇九五とある九十五之と月利九朱半とを

旧貸金廿兩を付金一歩の利を月利何程に當るや

答 月利一斗二厘五毛

術 (一) 廿 (二) 〇・二五 (三) 一 故よ旧貸の金一歩に當今

の廿五錢より之と (一) と (二) の廿を以て除き 〇・一二五

とある 百廿五之と月利割一斗二厘五毛とを

金廿五兩と月一斗四厘十の利よりて貸をき利金六兩

三十錢來り此月数と問 答 十八ヶ月

術 (一) 元金兼利割 (二) 利金 (三) 一 故よ廿五兩をき

利割 〇・一四と乘ト 三十五錢とある 一月の (一) と (二) の

六兩三十錢と除き月数十八とゆる

月八朱の利の千からよして貸とき幾月よりて元利同様ある

や 答 百廿五ヶ月

術 (一) 〇・〇〇八 (二) 一 (三) 一 故よ (一) の 〇・〇〇八を以

て (二) の元一と除き百廿五ヶ月と知るあり

一ヶ月金一兩より付錢九厘の利月九朱のよりて三十二ヶ月

貸をき元利合金三百廿二兩來り此元金及び利金と問

答 元金二百五十四 利金七十二兩

術 (一) 一月 (二) 〇、〇〇九 (三) 三十二月 故よ (二) の 〇、〇

(一) 二八八 (二) 一 (三) 三百廿二田 〇九よ (三) の 三

十二と乗ト〇、二八八とある元一を加へ二八八とある

次の (一) と一以て (三) の 三百廿二田を除去元金二百五十田

をゆる之を合金三百廿二田の内減ト利金を知る

二金三百田を月一分四厘十の利よして廿ヶ月貸すとす

利を先引よして渡も金高を問

答 二百三十四田三十七錢五厘

術 (一) 元一 加月数乘 利割 (二) 一 (三) 元金 故よ 〇、〇一

四よせと乗ト〇、二八とある元一を加へ二八とある (一)

と一以て (三) の 三百田を除去渡一金を知る

三月一分の利の百よて先よ貸金四百八十田あり今廿ヶ月

七朱半の利七十五のよして何程の金と貸時を月利平均九朱

よ當るや 答 今貸附金三百廿田

術 (一) 九朱 減七朱半 (二) 一八 減九朱 (三) 先貸金 故よ

〇、〇〇九の内〇、〇〇七五と減ト〇、〇〇一五とある (一) と

一又〇、〇一の内〇、〇〇九と減ト〇、〇〇一とある (二) と

(三) の 四百八十田と乗ト四十八錢とある之と (一) の 〇、〇〇

一五と以て除き今の貸金とゆる

無盡金毎月三田五十錢宛廿五ヶ月満會よ至る月八

朱の利よして利金及び掛金高何程あるや 答 掛金高八十七田五十錢 利金九田十錢

術 (一) 一月 (二) 貳金 (三) 月数 故月数廿五とをき一

(一) 元一 (二) 利割 (三) 貳金 と加へ廿六とふる廿五

(一) 一月 (二) 月利 (三) 総月 と兼ト六百五十とふる

ニツは除き三百廿五とふる総月数あり 此法を杖儀算の

末の (三) と又 (二) の三田五十錢又 (三) の廿五と兼ト八十七

田五十錢とふる貳金高と又中の (二) の〇〇八二 (三) の三

田五十錢と兼ト二錢八厘とふる一月の利金あり末の (三)

と (三) の三百廿五と兼ト九田十錢とふる利金とを

一四 毎月金十田づつ後十ヶ月の間ど渡も処と取方の望も仕

せ月利一分の百かよして利も利を加へむいま渡り切もする

時と幾何ありや 答 九十五田七十一錢四厘余

術 (一) 元一 (二) 半月数 兼 利割 (二) 毎月渡金 (三) 月数 減一

月 故十ヶ月とニツは除き五とふる〇〇一と兼ト元

一と加へ一〇五とふる (一) と又十ヶ月の内一月を減ト

九とふる (三) と (二) の十田と兼ト九十田とふる (一) の一〇

五と以て除き八十五田七十一錢四厘余とふる之は常月

の渡り金十田と加へ九十五田七十一錢四厘余と知る

一五 年限と知らむ元金八百田貸を三歳一割の十かの利よして利

よ利と加へむ年賦よ毎年百田づつ成崩しよ取り皆済よ

ふる年数と問 答 十四年

術よ曰く元金八百田と以て年賦金百田と除き〇一二五

とふる内利割の半分〇〇五半割のと減り〇〇七五とあ



る法と一又利割の半分〇、〇五よ元一を加へ一〇五とふ  
る実と一法と以て除き十四年とゆる

盈剰の算

元利合して月崩は取金あり三田づ取ときと六田残り又

三田三十錢づ取を二田四十錢不足と云月数及び元利

合金と問 答 月数廿八月 元利合金九十田

術 (一) 多金 減 少金 (二) 殘金 加 不足金 (三) 一 故よ三田

三十錢の内三田と減ト三十とある (一) と一六田と二田四

十錢と加へ八百四十とある (二) と一 (一) の三十と以て除き

月数廿八とゆる之よ三田と乗ト八十四田とあり残り六

田と加へ合金九十田と知る

旅行する人あり其距離を知らば一日よ七里づ歩よれを  
不及ると十一里あり八里づ歩よて不及ると四里あり

とのみ此日数及び其距離を問 答 七日 距離六十里

術 (一) 多歩 減 少歩 (二) 多不及 減 少不及 (三) 一 故よ八

里の内七里と減ト一とある (一) と一十一里の内四里と減

ト七とある (二) ある日数と一之よ八里と乗ト五十六里と

ある四里と加へ其距離六十里とゆる

童子集りて菓子と分ると歩よ四十づ分よば百不足ト三

十八づ取ての亦七十不足とのみ人数及び菓子総数

とゆる

術 (一) 多分 減 少分 (二) 多不足 減 少不足 (三) 一 故よ四

答 童子十五人 菓子五百

十の内三十八と減ト二とある(一)より又百の内七十と減ト三十とある(二)より(一)の二を以て除き十五とある童子の数を之より四十と乗ト六百とある内百と減ト菓子数五百とゆる

一事と管ひあり一日は八時間づ働らけを終る日六時間の業不足を故より七時半づよりて成功をとり日数及び営業の総時間を問 答 十二日 営業九十時

術 (一) 多時 減 少時 (二) 不足時 (三) 一 故より八時の内七時半と減ト五とある(一)より以て(二)の六時と除き日数十二とゆる之より七時五と乗ト九十時間と知る

差分の算

米二百三十俵と東西の船は積むあり東船より西船を三十俵少しとり各幾何 答 東百三十俵 西百俵

術よ曰く二百三十俵と重き三十俵と加へ二百六十俵とあるニツよ除き東船百三十俵とゆる内三十俵と減ト西船百俵とを

三十俵	船	米	西
			東

金八十三圓と兄弟三人よかりあり伯より仲を二圓少く仲より叔を三圓少しとり各の幾何

答 伯三十圓 仲廿八圓 叔廿五圓

術よ曰く伯中の差二圓と二倍一仲叔の差三圓を加へ七圓とある又八十三圓と加へ三倍取金三ツお除き

二圓	三圓	叔
二圓		仲
		伯

伯三十田とゆる内二田と減ト仲廿八田とゆる内三田と減ト叔廿五田と知る

解 圖 總 術 分 差

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				

○は差あり假令を四人に配分せし時を一分より四進の○と計へ差六ツありと知べし

三 金六百十五田と六區は配分せし時第一區より次第十五田衰りと云各を問

答 第一 第四百十田 第二 百廿五田 第三 百十田 第四 九十五田 第五 八十四田 第六 六十五田

四 術より曰く六區の内一と減ト六と乗ト三十とあるニツは除き十五とあると差の數あり解之は衰金十五田と乘ト二百廿五田とある六百十五田と加へ八百四十田とある第一の六ツは除き第一の百四十田とゆる此内十五田と次第は減ト各の取金を知る

七ツ組の採あり頭の代金四田三十錢よりて末の代金一田三十錢ある時を總代金と問 答 十九田六十錢

術より曰く頭の代四田三十錢より末の代一田三十錢を加へ

五 五田六十錢とある七ツと乗トニツは除て總代金を知る 宴會入費八十四田と上中下の三官士より出をよ下より次第は二倍增よ出をとり各の出金幾何あるや

小學塵芥記 卷二 三十一 頂天堂九代藏

答 上官四十八田 中官廿四田 下官十二田

術よ曰く假よ下官と一と之と二倍一中官と一又之と

二倍一四とある上官と一かのく相併べ七とあるを以て

八十四田と除き下官の十二田とゆる之と二倍一中官の

出金と一之と二倍一上官の出金とゆるあり

六 金千四百七十六田と四等よ分つよ一等より次第内三割衰

りある時をかめく幾何 答式左の如し

一等五百田 二等四百田 三等三百廿田 四等二百五十六田

術よ曰く假よ一等と一と定め之よ内二割の〇八と乗ト

二等と一又〇八と乗一〇六四とある三等と一又〇八と

乗ト〇五一二とある四等と一各相併べ二九五二とある

七 洋酒百五十七瓶と三商の出金高よ應トて分つよ其出金を

一より二を内二割少く二より三を外三割少くと云各と問

答 第一六十五瓶 第二五十二瓶 第三四十瓶

術よ曰く第三と假よ一と定め外三割の一三と乗一第二

と一之と内二割の〇八を以て除き一六二五とある第一

と一各相併べ三九二五とゆる之と以て百五十七瓶と除

き第三の四十瓶とゆる外三割の一三と乗ト第二の五十

二瓶とゆる之と内二割の〇八を以て除き第一とゆる

八 金巾木綿三百端と三店へ分つよ一より二を外二割半少く

八 百天壹九二歳

又一の分と二の分と相合しとる三ツ除と三の分とを云  
 各と問 答 第一百廿五端 第二百端 第三七十五端  
 術よ曰く第一と仮よ一と定め之よ外二割半の一五と  
 以て除き〇八とある第二と一第一の一と加へ一八と  
 る三ツよ除り〇六とある第三と一第一第二と加へ二四  
 とあると法と一三百端を除り百廿五端とある第一と  
 之に〇八と乗れ第一の百端をゆり又第一の百廿五端よ  
 〇六と乗れ第三の七十五端をゆり  
 九金二千六百八十田と東西南北の四区は配布とるよ東より  
 西を内三割少く西より南を外一割半増し北を西の四分  
 一ありとりよかのく幾何あるや

答 東千田 西七百田 南八百五田 北百七十五田  
 術よ曰く東と仮よ一と定め内三割の〇七と乗れ西と  
 之よ外一割半の一五と乗れ〇八〇五とある南と一又  
 西の〇七と四ツよ除り〇一七五とある北と一東西南北  
 相併べ二六八とあると法と一二千六百八十田を除き東  
 千田とゆり西の〇七と乗れ西七百田をゆり之よ外二割  
 半の一五と乗れ南八百〇五田をゆり又西の七百田を  
 四ツよ除り北百七十五田とある  
 〇米九十俵と青黄赤白黒の五組よ分るよ青の取米半分を黒  
 の取米と一かのく其差同し割合ありとりよ各幾何あるや  
 答 青組廿四俵 黄組廿一俵 赤組十八俵

白組十五俵 黒組十二俵

術より曰く青と仮よ一と定め二ツよ除り〇五とある黒と  
 青の内黒を減ト〇五とある四ツよ除り四ツよ青黄赤  
 減ト余り〇一二五とある同差と〇五と加へ〇六二五  
 四ツあり〇一二五とある同差と〇五と加へ〇六二五  
 とある白と又同差〇一二五と加へ〇七五とある赤と  
 同差〇一二五と加へ〇八七五とある黄と青黄赤白  
 黒相併べ三七五とある法と九十九俵を除き廿四俵と  
 青組の取米あり二ツよ除り十二俵とある黒組の取米  
 あり又青の内黒を減ト十二俵とある四ツよ除り三俵と  
 あり同差と一廿四俵の内同差三俵と次才よ減ト各と  
 金五百三十田と上中下の三等よ各川よ上より中を内三割

衰より三十田多く中より下を内一割衰より七田多くと云

各と問 答 上等二百田 中等百七十田 下等百六十田  
 術より曰く上と仮よ一と定め内三割の〇七と乗ト中と  
 又内一割の〇九と乗ト〇六三とある下と上中下相併  
 べ二二三とある法と五百三十田の内中の多き金三十  
 田と下の多き金七田と減し残り四百九十三田とある又  
 内一割の〇九よ中の多き金三十田と乗ト廿七田とある  
 と四百九十三田の内減ト四百六十六田とあると実と  
 法二三三を以て除き上等二百田をゆる〇七と乗ト三十  
 田と加へ中等百七十田をゆる又〇九と乗ト七田と加へ  
 下等百六十田と知る

牛肉千二百廿四斤と上中下の三隊に分つ上隊を十人中隊を廿人下隊を三十人より中隊を上隊より一人毎に内三割衰り下隊を中隊より一人毎に内二割衰りあり各を問

答 上隊三百斤 中隊四百廿斤 下隊五百〇四斤

術よ曰く中の廿人は内三割の〇、七と兼ト十四とある中下下の三十人は内三割の〇、七と内二割の〇、八と兼ト十六八とある下と中十四及び上の十人を加へ四十、八とある法と以て千二百廿四斤と除き三十斤とある上隊一人と兼ト上隊と又三十斤と中の十四と兼ト中隊と又三十斤と下の十六八と兼ト下隊とゆる

橋普請入費金六千四百五十六四七十錢と東西の両區より

出を東と四町西と五町より東は町毎に内二割衰り西は町毎に内一割衰り西詰より東詰を内二割少く各を問

西詰町千田 二丁目九百四 三丁目八百十四

四丁目七百廿九田 五丁目六百五十六四十四錢

東詰町八百四 二丁目六百四十四

三丁目五百十二田 四丁目四百〇九田六十錢

術よ曰く西詰丁と仮よ一と定め内一割の〇、九と兼ト西二と一〇、九と兼ト〇、八一とある西三と一〇、九と兼ト〇、七二九とある西四と一〇、九と兼ト〇、六五六一とある西五と一各相俵ベ四〇、九五一とある西區と又西詰の一と内二割の〇、八と兼ト〇、八とある東詰丁と一内二割の

此二割と東の裏りあり  
 ○、八と兼ト○、六四とある東二と一〇、八と兼ト  
 ○、五一二とある東三と一〇、八と兼ト○、四〇九六と分  
 る東四と一〇、八と兼ト相併べ東區二、三六一六とある西區四、  
 ○九五一を加へ六、四五六七とあると法と一以て六千四  
 百五十六田七十錢を除き西詰丁千田とゆる〇、九を次第  
 二兼ト西區各町の出金とゆる又千田よ〇、八を兼ト東詰  
 丁八百田とゆる〇、八を次第二兼ト東區各町の出金とゆる  
 洋貨三百ドルと東西みて両替とゆる其銀十八貫八百六十  
 目あり東相場と六十三匁にて西相場と六十二匁八分ふ  
 り各幾何あるや 答 東百ドル 西二百ドル

術 (一) 多相場減 少相場 (二) 三百ドル 兼多相場減 合銀

(三) 故よ三百ドルよ六十三匁を兼ト十八貫九百目と  
 ある内十八貫八百六十目と減ト四十目とある (一) と一六  
 十三匁の内六十二匁八分と減ト二分とある (一) と一以て  
 (二) の四十目を除き西の銀二百ドルとゆる三百ドルの内  
 之と減ト残り百ドルと東の銀とす  
 蜈蚣と蛙と合して三十四匹あり其足数合して千本あり蜈  
 蚣と百足より蛙と四足あり各幾何あるや  
 答 蜈蚣九匹 蛙廿五匹

術 (一) 多足減 少足 (二) 足数減 合数 兼 少足 (三) 一 故よ  
 三十四よ蛙の足四と兼ト百三十六とある千本の内減ト  
 八百六十四とある (二) と一百の内四と減ト九十六とある

八 算 術 力 也 二 卷 三 三 二 六 頁 天 下 三 卷 二 九 頁



(一)とて以て(二)の八百六十四と除き蜈蚣九匹とゆゑ以て三十四の内減し残り蛙廿五匹と知る  
 前の二題の如きを支那の算書よては均輪とりひ替る差  
 分法と同名有り故に茲に録を

約分

男子と十四日にて成功する業を女子と三十五日にて成業  
 する時を其力の比例を如何 答 男子五 女子二  
 術より曰く十四日を以て三十五日と除き二と残り七とる  
 り残り七と以て十四日を除き二とる 何れも除き尽さ  
 り其の二等数と約分し之を以て故に此除き尽さる七と以て十  
 四と三十五と除き男子を二日女子を五日とる之と轉

ト男子の力量と五と一女子の力量と二とを  
 新酒二百〇四石は古酒百三十六石と合すと云ふ何分の合  
 せ方あるや 答 三之二

術より曰く百三十六石と以て二百〇四石と除き一と残り  
 六十八とる之を以て百三十六石と除き二とゆゑ除き  
 尽さる故に此六十八と等数と一を以て二百〇四石と百三  
 十六石と除き新酒三古酒二とゆゑ故に三之二とす  
 何れも約分する法を少き数と以て多き数を除き其残り  
 と以て少き数を除き其残りと以て前の残りも除き次第  
 よ此の如く互に除き除き尽る時の法数と等数と一各と約  
 するあり若し除き尽さる一とゆゑる時を等数あり

命分

金三百兩と廿九人よ配分も其一人の所得と聞

答 十兩〇三十四錢四厘廿九分廿四

術よ曰く廿九を以て三百兩を除き十〇兩三十四錢四厘と残り二錢四厘を以て之を除く時毛の位より通用貨のあき微少の位有り故よ之と存して廿九分廿四と命あるあり此上強て廿九を以て二錢四厘を除く時毛八毛二七五八余を以て雖ども微少の數なるゆへ此の如く不尽數を分母子よ命あるあり法の廿九と分母と云ひ實の廿四と分母とりあり他之よあり

加減分

五分之二と七分之二と加へ幾何とゆるや

答 三十五分之三十一

術よ曰く兩分母の五七相乗し三十五と分母と分母と分母と相併し二五の十と三七の廿一と相併し三十一と分母と相併し數と三十五分の三十一とを

米三俵七分之二の内一俵九分之八と遺ひとり幾米何程

答 一俵ト六十三分之廿五

術よ曰く分母の七と三俵よ乗し分母の二と加へ七分之廿三俵と又後の分母の九と一俵よ乗し分母の八と加へ九分之十七俵と而して後の分母の九を前の分母と三俵よ乗し二百〇七とある内前の分母七よ後の分母と

七俵と乗し百十九とあると減し八十八とある実と  
 前後の分母七と九と相乗し六十三とあると分母七と以て  
 て実八十八と除き残米一俵と六十三分の廿五と知る

乗分

茶三斤あり此七分の五を幾何あるや 答 二斤七分の一  
 術よ曰く三斤よ分母五と乗し十五とある分母七を以て  
 除き二斤と残り一とある此一分と分母七と以て

米二斗四升七分之二あり一升の價七錢五厘三分の一ある  
 時を此代幾何あるや 答 一山八十二錢九厘廿一分の十一  
 術よ曰く二斗四升よ分母の七と乗し分母の二と加へ百  
 七十とある別よをき又七錢五厘よ分母の三と乗し分母

の一と加へ二百廿六とある別よをく百七十と乗し三方  
 八千四百廿とある実と一兩分母三と七相乗し廿一と  
 通分母と一以て実と除き一山八十二錢九厘と残り十  
 一とある十一と分母と以

除分

尋常は歩行するより人力車の速きと一倍七分の五ある時  
 と尋常は五時間と達する処と人力車ある時と幾時と達す

答 二時五十五分

術よ曰く一倍よ分母の七と乗し分母の五と加へ十二と  
 ある七分の十二と一此分母の七と五時よ乗し三十五と  
 なる分母の十二と以て除き二時と十一とある此十一と

尋常は歩行するより人力車の速きと一倍七分の五ある時と尋常は五時間と達する処と人力車ある時と幾時と達する

六十一時のが 六百六十とある又十二と以て除き五十五  
分と知る総て分数の除法を分母を乗じ分子を以て除く  
るり分母分子を反轉と心得べし

羅紗五エル三分之二の價三十一四七分之四ある時々一  
ル幾何ありや 答 五四七分之四

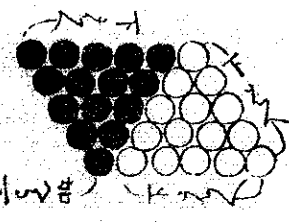
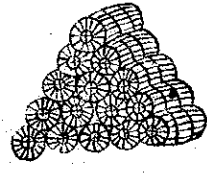
術よ曰く三十一四よ分母の七と乗じ四と加へ二百廿一  
とある七分之二百廿一とあり又五エルよ分母の三と乗じ  
分子の二を加へ十七とある三分之十七とある之と以て  
七分之二百廿一と除くよ分母の三と二百廿一よ乗じ  
六百六十三とある実と分母の七よ分子の十七と乗じ  
百十九とある法と 実六百六十三と除き五四と残り六

十八とあり又此六十八と百十九と約分するよを六十八  
と以て百十九を除き一と五十一とある此五十一と以て  
六十八と除き一と十七とある此十七と以て五十一と除  
けが除き尽て三とゆる故又十七と等数と以て百十九  
と六十八と除き七分之四と成

杉楸の算

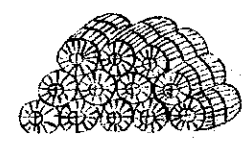
杉形よ積むあり下楸五俵留り一俵

よして俵数幾何 答 十五俵  
術よ曰く下楸五俵へ留り一俵と  
加へ下楸五俵と乗じ三十俵と成  
るニツよ除り俵数とゆる



番の如く上拵三俵下拵八俵あり俵数幾何ある

や 答 三十三俵



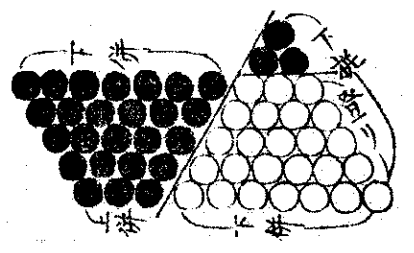
術より曰く下拵八俵の内上拵三俵と減ト一俵と加へ登り六俵とある又上拵下拵を加へ

十一俵とある登り六俵と架トニツよ除り俵数と知る

答 止五俵

同く上拵三俵登り五俵よりして総俵数と問

術より曰く上拵三俵より登り五俵と加へ内一俵と減ト下拵七俵とある上拵と加へ十俵とある登り五俵と架トニツよ除き俵数と



前拵及び此拵の右の下拵より考へ

同く下拵六俵よりして登り四俵あり俵数と問 答十八俵

術より曰く下拵六俵と二倍の内登り四俵と減ト一俵と加へ

上下拵の和九俵とある登り四俵と架トニツよ除り俵

数と知る此拵と前拵と同意なり総て上下の和は登りと

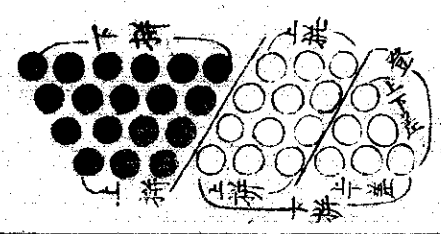
同く俵数十八俵あり登り四俵よりして上下の拵

幾何あるや 答 上拵三俵 下拵六俵

術より曰く登り四俵の内一俵と減ト上下の差

三俵とある俵数十八俵と二倍より三十六俵と

ある登り四俵より除き上下の和九俵と知る



之へ上下の差三俵を加へ十二俵とあり二ツは除り下拵  
六俵とあり此内上下の差三俵を減り上拵三俵とあり

復習題

金一田小白米一斗二升五合の時白米二石三斗の代と問

答 十八田四十錢

一升の定價十八錢の酒三斗買ひ十六錢は直引して酒めて

取り時を幾何ありや 答 三斗三升七合五夕

一石金九田六十錢の上米と同く七田の下米と合て一石と

八田六十錢は賣と云ふ上米一石は合を下米幾何ありや

答 下米六斗二升五合

四斗八升容の米三十俵あり一石の相場五田廿錢ふして此

代と問

答 七十四田八十八錢

五 醬油百五十樽の代金八十六田八十五錢あり一樽の代と問

答 五十七錢九厘

六 米一石と麴よして一石六斗あり麴四斗の原米幾何ありや

答 原米二斗五升

七 玄米十三石五斗と搗て白米十一石二斗五升あり外何割の

答 外二割減

八 原價三百〇七田五十錢の物を賣り三百七十五田を得たり

答 内一割八分

九 金十田は月一ヶ月廿五錢の利よして七十二田貸を一月

幾何の利とゆらや

答 一田八十錢

一 金十五田より一月廿五錢の利あり時より一ヶ年幾何の利  
よ當りや 答 年利二割

二 若干金と一ヶ年貸し二百六十二田四十錢の利を得り今  
千七百五十田の利をばりよと幾年ありや 答 六年八ヶ月百六十四分五

三 金百田より一ヶ年八田の利あり時より幾年と経て元利同額  
よありや 答 十二年半

三 有金と三ヶ年九ヶ月貸し八百五十五田十五錢の利を得  
り一ヶ年よ幾何とばりや 答 二百廿八田の四錢

四 金百田より一ヶ年四田五十錢の利より一ヶ年五千二百田を  
五ヶ年三ヶ月貸し時より幾何の利とばりや

五 月一歩半千分の利より一ヶ元金八百五十四田と二年五ヶ  
月貸し此利金を問 答 三百七十一田四十九錢

六 金十田より廿五錢の利より一ヶ八十五田と一年四ヶ月貸し  
此利金を問 答 廿〇田四十錢

七 金八百田と月八朱の千分の利より一ヶ三ヶ月貸し不利と先引よ  
して渡し金を問 答 七百八十一田廿五錢

八 一ヶ年七ヶ月の後ち拂ふべき金六百九十三田九十錢あり  
先方の望しよ任せ一ヶ年一割八歩十分の利を以て金之  
と渡し時より幾何ありや 答 五百四十田

九 一ヶ年二割十分の利より一ヶ金五万田と毎年利より利と加へ

八景 算功記 卷二

五年貸し置く時を如何 答 十二万四千四百十六圓

二百圓の金と五ヶ年貸し若干の利とゆるり之と同利割は  
て三百圓の金と以て同等の利金とゆるるを貸し幾年あるや  
答 三年四ヶ月

二 甲ある人より八百圓の金と無利貸してある人八ヶ月借  
てしとありいまある者より千圓の金と甲へ貸し幾月の  
後受取て互ひに損益なきや 答 六ヶ月五分之二

三 一室を営むは八人の匠夫あて六十五日は成功もる処と今  
匠夫を二人増え時を幾日よして成功もるや  
答 五十二日

三 千八百坪ある地所あり内千〇八十坪を地形五寸高くして

水悪し仍て之と平均まると幾何と削るべきや  
答 削ると二寸

四 道路の両側は樹を植ゑあり総樹数を千七百三十本よして  
其間と三十五間づゝ隔つといふ道路の里程と問  
答 十四里

五 隣地は高樹あり日光の影と視ると十九間半あり我境壁の  
高さ九尺よして其影も五尺あり隣地の樹の高さ幾何あ  
るや  
答 三十五間六寸

六 童子集りて風を揚ると聞くよ所持の糸七分之三出せしに  
残り三十間ありと云ふ其糸の長さ幾何ありや  
答 五十二間半



三 童子の豎三尺五寸ある鼠と揚るあり其糸三十三間出せし  
時よ其豎二尺は視へし其糸の所有出せを鼠視へを云  
糸の所有幾何あるや 答 七百三十間

六 脚夫あり四時半は十里の処に到り今より五時廿四分歩  
行せば幾何の処に到るや 答 廿二里

无 遠國へ飛脚と出せあり出せし後六日と過て又急使と出せ  
よ九日よして先の飛脚は追付しと云ふ前後の脚夫速力  
の比例と問 答 前脚夫二 後脚夫五

言 都より鄙へ下る人々一日は十三里歩む鄙より都へ登る者  
を一日は十五里歩行し各同日同時は發足し六日目の旅泊  
よ行達しと云ふ此距離幾何あるや 答 百六十八里

三 一 登夜よ十二分進む癖多し時辰儀あり今午後八時は改正  
翌午前十一時よ正合せしめん欲し時をいま何時よ  
成しをべきや 答 七時五十二分三十秒

三 時辰儀を正午十二時よ於て時針分針に相重あり其他何時  
よ相重あるや 答 尤の如し

三 一時五分廿七秒之十一分、二時十分五十四秒之十一分、  
三時十六分廿一秒之十一分、四時廿一分四十九秒之十一分、  
五時廿七分十六秒之十一分、六時廿二分四十三秒之十一分、  
七時三十八分十秒之十一分、八時四十三分八秒之十一分、  
九時四十九分五秒之十一分、十時五十四分二秒之十一分、  
三 麥一石の價金三圓廿錢の時五斤の麴と買ふよ四十錢あり

八巻 月去言 卷二 四十四 頁天堂九

いま麥一石の價廿錢下落する時と三斤の麴を幾何あるや

答 廿二錢五厘

廿 廿貫目の重ある荷物と三十五里の処へ運送して六日廿五錢の賃錢ある時三十五貫目の物と廿五里運輸する賃錢と

答 七圓八十一錢二厘五毛

三 米三斗五升容二百八十俵あり四斗俵よまる時と幾何ある

答 二百四十五俵

六 地租金二百四十圓の内田方半額米納よまるに平均相場一石よ付五圓十二錢ある時と此納米幾何あるや

答 廿三石四斗三升七合五夕

三 同く三百五十五圓の内田方半額納米ある時地租改正の平

均相場金一圓二月二斗〇八合あり此納米幾何あるや

答 三十六石九斗二升

六 貢米二百八十石の処此斗立米幾何あるや

答 二百九十六石

元 米三石と麥四石と代金等一麥より米を金一圓よ付四升高

答 米一斗二升 麥一斗六升

四 牛馬一池と廻りあり馬を三時間より此池と一廻り牛を

七時間より一廻りをとりいませ牛馬同所より左右よ別れ

之と廻り相逢時間と問 答 二時〇六分

七 曜と十二支と相値を幾日と経るや 答 八十四日

甲乙丙の三隊あり甲を三日毎よ出役し乙を六日毎よ出役

四 四

ハ 皇 歴 力 也

一丙と九日毎又出役をとり今日會役も処の三名再い相會をも迄幾日と経るや 答 再會暨十八日

甲六度目 乙三度目 丙二度目

米千四百三十俵と麥千百六十石と若干隊に分るよ米ハ六俵餘り麥ハ八石不足とりの隊數及び各幾何あるや

答 十六隊 米八十九俵 麥七十三石

四

一籠よ三百餘り容一蜜柑あり童子として之を計へし切るよ三ツ宛計へても五ツ宛計へても七ツ宛計へても九ツ宛計へても十五ツ宛計へても盈りありと云総數幾何あるや

答 三百十五

三

男女の二人よて一事と營むよ男を四日よて落成一女を

九日よて落成する處と男女二人よて其事と二日營業せを其事の何分と成一ぼるや 答 十八分之十三

二

甲しの二工あり甲を六日よて成功をしを九日よて落成をよ云ふいまだ此二人共よ營業せを幾日よて成一ぼるや

答 三日五分之三

一

甲しの二工一事と營むよ甲を十五日よて成一ぼる若し甲乙共よ其事と成を時を九日よて落成をとり人乙一人よ

只

て成を時を幾日あるや 答 廿二日半  
男女二人よて手業を為を時を七日よて終功をばと男一人よて成を時を十日よて成功をとり人之と女一人よ任せ働く時を幾日よ成をや 答 廿三日三分之一

兎

野夫あり一日耘れを八畝あり又一日耘れを三畝あり又一

日種まきと六畝ありと一人之と一夫あり一日は耘耕種の

三業と勤むる時を幾何の畝数と成まや 答 一畝十八坪

吾

甲乙の二泉あり乙泉と一池より引く時を十八時より水充

ち甲泉と一池より引く時を八時より水充るとり今二泉

共一池より引くと三時より乙泉と止め甲泉のより引

く時を此後幾時よりて充りや 答 三時四十分

五

金七百廿田と三區より出まよ一より二と内二割少く又一

より三と内四割少とり一人かめく出ま処幾何ありや

答 第一區三百田 二區二百四十田 三區百八十田

五

米九百七十六俵と三隊へ人数を應下配布せらに其人数を

一より次然み内二割衰りありかめく幾何と配布せらや

答 一隊四百俵 二隊三百廿俵 三隊二百五十六俵

五

金五千田と兄弟三人より分り仲と伯の二と分り一と取り叔

と仲の三分之一と取り一人かめく幾何と分りや

答 伯三千田 仲千五百田 叔五百田

吾

金二千六百八十田と東西南北の四村より分り東より西を

内三割少く西より南を外一割半増し北を西の四分の一と

取り一人かめく幾何ありや

答 東千田 西七百田 南八百五田 北百七十五田

五

米八百〇三石と四庫より出まあり西を東の五分之三南を

西の八分之七北を東より七十二石少くと云ふ各を問

小學聖力記 卷二 四八 百八十五九二

答 東二百八十石 西百六十八石 南百四十七石

北二百〇八石

去米九百六十石と五船の積入るあり一と二の船の積米と三  
四五の三艘の積米と相等しく各同差ある時と何程あるや

答 一 二百五十六石 二 二百廿四石

三 百九十二石 四 百六十石 五 百廿八石

村岡重行再校

明治小學塵劫記卷之二 終

